

トウキョウ  
The 13th  
ゲイジユツ  
Tokyo Performing Arts  
ミホシイチ  
Market  
2009  
YEBISU the Garden Hall / Room  
March 4 (Wed) - 7 (Sat)

東京芸術見本市2009  
開催報告書

## ■ 目 次 ■

00.	総括	P.3
01.	開催概要	P.4
02.	参加者内訳	P.5
03.	海外参加者一覧	P.7
04.	ブース・プレゼンテーション	P.12
05.	ヴィジュアル・プレゼンテーション	P.14
06.	TPAM ショーケース	P.15
07.	セミナー	P.17
08.	インターナショナル・ショーケース 2009	P.23
09.	レセプション	P.31
10.	パブリシティの記録	P.32
11.	主な掲載記事	P.34





## 00. 総括

東京芸術見本市 2009 は 3 月 4 日～7 日（TPAM ショーケース実施期間は 2 月 28 日～3 月 8 日）に実施、昨年を上回る数の方にお集り頂いた。昨年実施した、欧州の舞台芸術の会議 IETM（コンテポラリー・パフォーマンス・アーツ国際ネットワーク会議）から継続発展した、「舞台芸術制作者ネットワーク会議」を併設実施。アジアのプレゼンターが来場し、アジアにおける、同時代の舞台芸術に従事する制作者の国際的なネットワークの必要性について話し合うなどして、新しいプレゼンターが来場。アジアの中の日本の舞台芸術の役割を再認識する機会となった。

また、国内の劇場がブースやヴィジュアル・プレゼンテーションにご参加いただき、東京芸術見本市の新たな活用の仕方をご提示くださった。これは来場者が「売る側」「買う側」という関係だけではなく、芸術団体の制作者も、劇場の担当者も共に作品を創作して観客に提供するという共通の使命をもつ「プレゼンター」として、本催事を活用し始めてくださっているからであろう。

昨年の総括でも例として「コンタクトリスト」の活用に触れつつ言及させて頂いたが、このような基盤整備事業の成果は地味だが着実に現れており継続実施の重要性を引き続き強く感じた。

今回の東京芸術見本市は、他に「TPAM ショーケース」の充実に注力した。いわゆる国内外の舞台芸術関係者に広く自身の活動を紹介する「フリンジ・フェスティバル」的な役割を目指して、昨年から強化したプログラムが「TPAM ショーケース」であり、今回の参加をきっかけに海外の著名なフェスティバルへ招聘された団体もいた。参加希望者も増えており今後さらなる飛躍が望める有力なプログラムとして、更に発展させていきたい。

毎年併設開催されている「インターナショナル・ショーケース 2009」は、3 月 4 日～7 日に実施。本ショーケースは、ある地域もしくは日本という国を代表する作品を、網羅的というよりは、未だ確立されていないが、優れた同時代の舞台芸術に焦点をあてつつ実施した。来場者は TPAM ショーケースを含め、期間中に 10 本以上の作品を見る機会に恵まれるわけだが、これらの公演とのバランスを鑑みつつ、単にトレンドを提供するのではなく、昨今の舞台芸術に対する理解を別の角度から検証し、新たな理解が生まれることも一つの使命とした。各プログラムについては該当頁を参照いただくとして、この方針によるプレゼンテーションは、国内外の主要なプレゼンターから本ショーケースに高い評価を受けた理由の一つである。

また、もう一つの大きな特徴として、英語字幕や同時通訳をできるだけ用意したことがあげられる。国際的なフェスティバルを謳ってさえ本課題に対する取り組みが薄いのが日本の通例で、ましてや一回だけのしかもダイジェストの公演のためにここまでのケアをすることは極めて少なく、特に日本語を母国語としない来場者から、「ここまでバイリンガルで実施される舞台芸術の催事は日本国内では類を見ない」との評価を得ることができ、直後に海外の劇場から招聘を受けた団体もある。舞台芸術の世界的動向を受けつつ、各種関係団体との協力を強めつつ、より一層の進化が期待されている。

日本には、作品と観客をさまざまな立場や方法でつないでいる劇場関係者や制作者など、舞台芸術の「プレゼンター」の協会がなく、孤軍奮闘されている方も多いと思う。ささやかではあるが、東京芸術見本市が年に一回、互いの情報や問題を共有し、新しいアイデアが生まれる一助になるよう、今後は情報交換やコミュニケーションが充実するようなプログラムにシフトしていくべきという意見もきかれる。参加いただいた皆様の意見を反映して次回に臨みたいと思う。

末筆になりましたが、参加者の皆様、各関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

東京芸術見本市事務局

## 01. 開催概要

事業名：東京芸術見本市 2009／インターナショナル・ショーケース 2009

会 期：2009年3月4日〔水〕～7日〔土〕

※TPAMショーケース：2月28日〔土〕～3月8日〔日〕

会 場：恵比寿ザ・ガーデンホール／ルーム 他

### <東京芸術見本市 2009>

主 催：東京芸術見本市 2009 実行委員会

(構成団体：国際交流基金／財団法人地域創造／国際舞台芸術交流センター)

特別協賛：EU・ジャパンフェスト日本委員会

特別協力：恵比寿ガーデンプレイス株式会社

助 成：スペイン文化省グラシアン基金 (Subvencionada por Programa "Baltasar Gracián" del Ministerio de Cultura de España) ／スペイン大使館

協 賛：フィンランドセンター

協 力：セイコーエプソン株式会社／ブリティッシュ・カウンシル

専門学校エビスビューティカレッジ／株式会社ポスターハリス・カンパニー

テアトルプラトール／ロングランプランニング株式会社／財団法人大阪 21 世紀協会

ケベック州政府在日事務所

後 援：外務省／総務省／経済産業省／文化庁／東京都／社団法人全国公立文化施設協会

併設事業：財団法人 地域創造主催セミナー (共催：社団法人全国公立文化施設協会)

舞台芸術制作者ネットワーク会議 (※)

提携事業：フェスティバル/トーキョー

協力事業：芸術家のくすり箱ヘルスケアセミナー vol.4

※ 舞台芸術制作者ネットワーク会議

会 期：2009年3月3日(火)・4日(水)

会 場：日仏会館

主 催：国際舞台芸術交流センター

助 成：平成 20 年度文化庁芸術団体人材育成支援事業／財団法人 セゾン文化財団

協 力：国際交流基金

### <インターナショナル・ショーケース 2009>

主 催：文化庁

企画・制作：国際舞台芸術交流センター

参加料：	ブース・プレゼンテーション (通常料金)	60,000 円
	ブース・プレゼンテーション (早期割引)	55,000 円
	ヴィジュアル・プレゼンテーション	35,000 円
	TPAM ショーケース	30,000 円
	* TPAM ショーケースとのセット料金	
	+ブース・プレゼンテーション (通常料金)	70,000 円
	+ブース・プレゼンテーション (早期割引)	65,000 円
	+ヴィジュアル・プレゼンテーション	45,000 円
	4日間通しビジター・パス (通常料金)	10,000 円
	4日間通しビジター・パス (早期割引)	8,000 円
	1日ビジター・パス	4,000 円
	* 舞台芸術制作者ネットワーク会議	無料

## 02. 参加者内訳

<b>1. ビジター参加者数</b>	計 429 名	
4 日間参加者	285 名	
国内参加者	232 名	
海外参加者	53 名	
1 日参加者（海外参加者 8 名を含む）	144 名	
3 月 4 日	7 名	（参加可能者数） 292 名
3 月 5 日	53 名	（参加可能者数） 338 名
3 月 6 日	60 名	（参加可能者数） 345 名
3 月 7 日	24 名	（参加可能者数） 309 名
4 日間ビジター参加者のべ人数		1,284 名
<b>2. 出展・アーティスト参加者数</b>	計 271 名	
ブース・プレゼンテーション参加団体	53 団体	（53 ブース）
ヴィジュアル・プレゼンテーション参加団体	29 団体	
TPAM ショーケース参加団体	27 団体	
参加者数（各日）		271 名
参加者数（4 日間）		1,084 名
<b>3. 参加者実数（ビジター＋団体）</b>	計 700 名	
<b>4. 延べ参加者数</b>		<b>2,368 名</b>



## 5. 各企画の参加者数（入口にてカウント）

■東京芸術見本市 2009		総席数	入場者数
3月4日	オープニング・レセプション	200席	212名
3月5日	セミナー：日本におけるコミュニティダンスの現在と可能性Ⅱ	100席	32名
	日韓舞台芸術ミーティング		25名
	ヴィジュアル・プレゼンテーション（ダンス）	130席	63名
	フィンランドクローズドミーティング		26名
3月6日	セミナー：財団法人地域創造セミナーアウトリーチを検証する！	130席	103名
	ヴィジュアル・プレゼンテーション（演劇・音楽）	130席	41名
3月7日	セミナー：舞台芸術における情報発信について考える	130席	45名
	ヴィジュアル・プレゼンテーション（劇場・ホール）	130席	47名
	クロージング・パーティ	150席	98名
	TPAM ショーケース（27 団体公演）予約者数		162名
	合計	1,100席	854名

■インターナショナル・ショーケース 2009			
3月4日	音楽ショーケース：三上 寛／友川カズキ	180名	112名
3月5日	ダンス・ショーケース：神村 恵／鈴木ユキオ／手塚夏子	180名	150名
3月6日	演劇ショーケース：dracom／三条会	180名	103名
	映像ショーケース：アジアの舞台芸術① ダンス	180名	42名
3月7日	ソウル舞台芸術見本市ショーケース：劇団ティダ	180名	67名
	映像ショーケース：アジアの舞台芸術② 演劇	180名	48名
3月5～7日	ポータブル・シアター ロトザザ（合計 28 回）	56名	56名
	合計	1,136名	578名

◎東京芸術見本市 2009／インターナショナル・ショーケース 2009 延べ参加者数 **1,432名**

■舞台芸術制作者ネットワーク会議			
3月3日	セッション① [90分のセクション×3]	140名	130名
3月4日	セッション②	140名	70名
	合計	280名	200名

### 03. 海外参加者一覧

海外参加者総数： 28 の国と地域から 計 114 名

#### ◆ビジター参加者 計 59 名

##### 【Australia／オーストラリア】 2 名

Rob GEBERT (アーツ・センター・メルボルン プログラム・マネージャー)

Rosemary HINDE (アーツ・センター・メルボルン アーティスティック・カウンセラー)

##### 【Austria／オーストリア】 3 名

Bertie AMBACH (スツェーネ・ザルツブルグ 共同キュレーター)

Peter HOSEK (ウィーン・シェーンブルン宮殿オーケストラ代表)

Almut WAGNER (ウィーン・フェスティバル ドラマトウルク)

##### 【Belgium／ベルギー】 1 名

Mary Ann DEVLIEG (IETM 事務局長)

##### 【Brazil／ブラジル】 1 名

Nayse LOPEZ (パノラマ・フェスティバル ディレクター／キュレーター)

##### 【Cambodia／カンボジア】 1 名

Fred FRUMBERG (アムリタ・パフォーミング・アーツ ディレクター)

##### 【P.R.China／中華人民共和國】 2 名

WEN Hui (リビング・ダンス・スタジオ、クロッシング・フェスティバル ディレクター／振付家)

ZHAO Chuan (草台班 ディレクター)

##### 【Finland／フィンランド】 1 名

Eeva BERGROTH (Smeds Ensemble 制作部長)

##### 【France／フランス】 3 名

Teresa EGGERS (映像作家)

Claus GASPARD (チェリスト)

Vincent MOON (映像作家)

##### 【Germany／ドイツ】 4 名

Anja DIRKS (Theaterformen 芸術監督)

Frie LEYSEN (Theater der Welt 芸術監督)

Matthias LILIENTHAL (Hebbel am Ufer 芸術監督)

Makiko YAMAGUCHI (国際交流基金ケルン事務所 Fachreferentin)

##### 【Hungary／ハンガリー】 1 名

Jozsef KARDOS (Pécs 2010 European Cultural Capital プログラム・ディレクター)

##### 【Indonesia／インドネシア】 2 名

Kusworo Bayu AJI (Teater Garasi; Laboratory of Theatre Creations エグゼクティブ・ディレクター)

Amna KUSUMO (KELOLA FOUNDATION ディレクター)

**【Korea／韓国】 9名**

Seok Kyu CHOI (AsiaNow プロデューサー／チュンチョン国際マイムフェスティバル エグゼクティブ・プロデューサー)

Seong-Joo JOH (LIG ART HALL 芸術監督)

Gyu Seog LEE (BeSeTo 演劇祭実行委員会 理事)

Jong Won LEE (Arko Contemporary Theater CEO)

BAEK Jinki (Pohang International Theater Festival)

CHA Seung Min (Noridan マーケター)

KIM Eunha (Cho-In Theater ジェネラル・マネージャー)

PARK Ae Ri (学生)

SHIN Eun Ju (ダンサー／教師)

**【Malaysia／マレーシア】 1名**

June TAN (Five Arts Centre メンバー)

**【Mongolia／モンゴル】 1名**

Gan-Ulzii GONCHIG (GTU co.,ltd プロデューサー)

**【Philippines／フィリピン】 1名**

Chris MILLADO (フィリピン文化センター副芸術監督／演出家・劇作家)

**【Poland／ポーランド】 2名**

Andrzej GIZA (Ludwig van Beethoven Association ディレクター)

Elzbieta PENDERECKI (Ludwig van Beethoven Association 理事長)

**【Romania／ルーマニア】 1名**

Constantin CHIRIAC

(SIBIU INTERNATIONAL THEATRE FESTIVAL & "RADU STANCA" NATIONAL THEATRE ディレクター)

**【Singapore／シンガポール】 4名**

Florence COULLET (Koelnmesse Pte Ltd カンファレンス・エグゼクティブ)

Tang FU KUEN (SEAMEO-SPAFA プロデューサー)

Grace LOW (Association of Asia Pacific Performing Arts Centres 事務局長)

Jobina TAN (The Esplanade Co Ltd アシスタント・プログラミング・ディレクター)

**【Slovenia／スロヴェニア】 2名**

Janez JANSKA (Maska ディレクター)

Nevenka KOPRIVŠEK (BUNKER／MLADI LEVI FESTIVAL ディレクター)

**【Spain／スペイン】 6名**

Laura ETXEBARRIA (LA FUNDICION ディレクター)

Maria del Carmen ETXEBARRIA (LA FUNDICION ディレクター)

Maria LLADO (INSTITUT RAMON LLULL 音楽コーディネーター)

Manolo LLANES (TEATRO CENTRAL 芸術監督)

Maria Jose PONT CHAFER (Smedia プレゼンター)

Borja SITJA (INSTITUT RAMON LLULL ディレクター)

**【Taiwan／台湾】 2名**

Pei-chen LIU (Cloud Gate Dance Theatre of Taiwan プロジェクト・マネージャー)

Joanna WANG (Cloud Gate Dance Theatre of Taiwan カンパニー・マネージャー)

**【Thailand／タイ】** 2名

Saetang NIKORN (8×8 Theatre Group 演出家)

Narumol THAMMAPRUKSA (Theatre Artist)

**【UK／英国】** 5名

Benjamin FREETH (Film Must Burn 映像作家・ビジュアル・アーティスト)

Roy LUXFORD (Michael Clark Company エグゼクティブ・ディレクター)

Helly MINARTI (アート・マネージャー)

Mary SHIELDS (Assembly Theatre プログラム・ディレクター)

Nicole Vivien WATSON (Surface Area Dance Theatre クリエイティブ・ディレクター)

**【USA／米国】** 2名

Erling WOLD (Erling Wold's Fabrications 芸術監督)

Kyoko YOSHIDA (U.S./Japan Cultural Trade Network, Inc. (CTN)エグゼクティブ・ディレクター)

**◆ブース・プレゼンテーション参加者** 計10団体・39名

**【Belarus／ベラルーシ】** 4名 \*下記4名はヴィジュアル・プレゼンテーションにも参加

ベラルーシ・フリー・シアター

Natalia KALIADA (ジェネラル・ディレクター／共同創設者)

Mikalai KHALEZIN (芸術監督／共同創設者)

Uladzimir SHCHERBAN (ディレクター)

Volha TSIASHKEVICH (通訳)

**【Canada／カナダ】** 6名

ケベック・オン・ステージ - シナール

Alain PARE (シナール CEO)

Paul TANGUAY (テンゲ・インプレサリオ ディレクター)

Elisabeth COMTOIS (アジャンス・スタシオン・ブルー エージェント)

Barbra SCALES (ラティテュード 45 代表)

Serge PARE (プロダクション・セルジュ・パレ代表)

Corinne JOZSEF (グラン・バレエ・カナディアン・ドゥ・モンレアル ツアー&ゲストカンパニー部ディレクター)

**【Denmark／デンマーク】** 2名

**Mancopy© Dance Company**

Jens BIERREGAARD (芸術監督)

Henrik JEPPESEN (ジェネラル・マネージャー)

**【Korea／韓国】** 6名

コリア・アーツ・マネージメント・サービス／ソウル舞台芸術見本市

PARK Yong-Jae (コリア・アーツ・マネージメント・サービス会長)

WIE Jiyun (コリア・アーツ・マネージメント・サービス マネージャー)

AN Jueun (コリア・アーツ・マネージメント・サービス コーディネーター)

HAE Min Young (コリア・アーツ・マネージメント・サービス プロジェクト・エグゼクティブ)

MOON Sun Mi

HYUN Joo Hark

**【Hungary／ハンガリー】 6名**

**プレジダンス・カンパニー**

Laszlo VARGA (マネージング・ディレクター)

Virag VIDA (共同プロデューサー)

Zsolt KRISTOFFY (共同プロデューサー)

**プロ・プログレッション**

Barna PETRANYI (マネージャー)

Ildiko HALLER (メンバー)

Szabolcs BADACSONYI (メンバー)

**【Sweden／スウェーデン】 1名**

**ロコ・モーション**

Asa EDGREN (ジェネラル・マネージャー)

**【Finland／フィンランド】 8名**

**ダンス・インフォ・フィンランド**

Sanna REKOLA (フィンランド・ダンス情報センター ディレクター)

Paula KARLSSON (フィンランド・ダンス情報センター国際担当アシスタント・マネージャー)

Janina VILEN (Susanna Leinonen Company プロデューサー／マネージャー)

Johanna MAKELA (フィンランド・サーカス情報センター インフォメーション・オフィサー)

Satu IMMONEN (Karttunen Kollektiv, Tommi Kitti & Co. プロデューサー)

Aarne TOIVONEN (フィンランドセンター 文化・コミュニケーション担当マネージャー)

Joanna SEPPANEN

Jarno LEHTOLA

**【Poland／ポーランド】 3名**

**シレジアン・ダンス・シアター**

Roman KUSNIERZ (デベロプメント・ディレクター)

Jacek LUMINSKI (芸術監督)

Katarzyna FURMANIUK (副デベロプメント・ディレクター)

**【UK／英国】 3名**

\* 下記3名はインターナショナル・ショーケースにも参加

**ロトザザ**

Alice BOOTH (ArtsAgenda アシスタント・プロデューサー)

Anthony HAMPTON (ロトザザ ディレクター)

Silvia MERCURIALI (ロトザザ メンバー)

※参加予定だった「トーゴ」(トーゴ)は都合によりキャンセル

**◆ヴィジュアル・プレゼンテーション参加者 計3団体・12名**

**【Australia／オーストラリア】 3名**

**スペクタクル・アート**

Clint HURRELL (ディレクター／デザイナー)

Tony WANDALLER

SUGISAKA Yuko (スペクタクル・アート日本コンタクト)

**【Belarus／ベラルーシ】** 4名 \*下記4名はブース・プレゼンテーションにも参加  
**ベラルーシ・フリー・シアター**

Natalia KALIADA (ジェネラル・ディレクター／共同創設者)

Mikalai KHALEZIN (芸術監督／共同創設者)

Uladzimir SHCHERBAN (ディレクター)

Volha TSIASHKEVICH (通訳)

**【Korea／韓国】** 5名

**モロ・ミュージック (The forest, KIM Yong-Woo)**

SHIN Chang Yool (モロ・ミュージック C.E.O)

SHIN Hyon Jeong (The forest)

HONG Soo Jin (SOOM ENTERTAINMENT マネージャー／ディレクター)

LEE Jeung-A (通訳)

LEE Jeong Rim

**◆インターナショナル・ショーケース 2009 参加者** 計2団体・11名

**【Korea／韓国】** 8名

**劇団ティダ**

HWANG Hye Ran (代表・俳優)

BAE Yo Sup (演出家)

Lee Hyun Ju (ステージ・マネージャー)

KIM Hui Jeoung (俳優)

JEONG Hyun Seok (俳優)

CHOI Jae Young (俳優)

MYUNG Hyun Jin (俳優)

BAEK Jung Jib (俳優)

**【UK／英国】** 3名 \*下記3名はブース・プレゼンテーションにも参加

**ロトザザ**

Alice BOOTH (ArtsAgenda アシスタント・プロデューサー)

Anthony HAMPTON (ロトザザ ディレクター)

Silvia MERCURIALI (ロトザザ メンバー)

## 04. ブース・プレゼンテーション

3月6日(木) 13:00~16:00、7日(金)・8日(土) 12:00~16:00/恵比寿ザ・ガーデンホール

### ■出展団体■ 計 53 団体・53 ブース

#### <ダンス> 計7団体・5ブース

アトリエ・エルスール

神村 恵/鈴木ユキオ/手塚夏子

86B210

パパ・タラフマラ

レニ・バツソ

#### <演劇> 計4団体・4ブース

dracom

THEATRE MOMENTS

THE KIO COMPANY

江戸糸あやつり人形 結城座

#### <音楽> 計5団体・5ブース

ガムランアンサンブル「WASABI」

志多ら

児雷也

友川カズキ

和太鼓×マリンバ GONNA

#### <フェスティバル> 計1団体・1ブース

フェスティバル/トーキョー

#### <劇場・ホール> 計10団体・10ブース

青山劇場・青山円形劇場/スパイラルホール

アクティオ株式会社(北沢タウンホール)

NPO 法人コンカリーニョ

神奈川芸術劇場

京都芸術センター

高知県立美術館

財団法人かすがい市民文化財団

座・高円寺/NPO 法人劇場創造ネットワーク

世田谷パブリックシアター

#### <制作会社・エージェント> 計7団体・7ブース

R PRODUCTION

アンクリエイティブ

子供のためのシェイクスピアカンパニー

ハイウッド

プリコグ/precog

ミホプロジェクト

ルフトツーク



©Horinouchi Takeshi

**<舞台芸術関連団体> 計 6 団体・7 ブース**

EU・ジャパンフェスト日本委員会  
NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク  
インフォメーションクリエイティブ  
カンフェティ  
テアトルプラトール  
ポスターハリス・カンパニー

**<海外団体> 計 10 団体・11 ブース**

コリア・アーツ・マネージメント・サーヴィス/ソウル舞台芸術見本市（韓国）  
シナール・ケベック・オン・ステージ（カナダ）  
シレジアン・ダンス・シアター（ポーランド）  
ダンス・インフォ・フィンランド（フィンランド）  
プレジダンス・アート・カンパニー（ハンガリー）  
プロ・プログレッション — ダンス from ハンガリー（ハンガリー）  
ベラルーシ・フリー・シアター（ベラルーシ）  
マンコピー・ダンス・カンパニー（デンマーク）  
ロコ・モーション — スウェディッシュ・ダンス & パフォーマンス（スウェーデン）  
ロトザザ（英国）

**<主催団体> 計 3 団体・3 ブース**

国際交流基金  
財団法人 地域創造  
国際舞台芸術交流センター

■総括■

2007 年にはブース出展への劇団やダンス・カンパニーなど芸術団体の参加を制限し、より参加費が安く、時間的な負担の軽いヴィジュアル・プレゼンテーションへの参加を促した。しかし、ブースを必要としている芸術団体があるということがわかり 2008 年には制限を撤廃、さらにブース出展料+1 万円で「TPAM ショーケース」にも参加可能としたセット料金を設定して芸術団体でもブースを持ち易い工夫をしたところ、参加団体の約 30% を芸術団体が占めることとなった。以上のような試行錯誤を経て、2009 年には前年の方向性を基本的に踏襲しつつ実施することとした結果、本年度のブース出展団体の総数は 53 団体と、昨年の 47 団体より増加し、芸術団体の参加も前年通り 3 割に上った。

特筆すべきは「劇場・ホール」の参加が昨年の 5 団体から 10 団体に倍増したことである。「座・高円寺」「神奈川芸術劇場」が館の新設をアピールするために参加しただけでなく、自館で企画・制作した自主事業の紹介や、他館との共同制作の可能性を探る目的で参加する公共文化施設の新規参加が目立った。

中でも、京都芸術センターが館の活動を紹介するとともに、関西を活動拠点とする劇団、ダンス・カンパニーから参加者を募り、計 7 団体をまとめてブースで紹介した。また、札幌の NPO 法人コンカリーニョも地域で活動する芸術団体をブースで紹介した。地方の館がその地域に拠点を置いて活動する芸術団体を取りまとめるかたちで紹介する方法は、経済的基盤が安定せず単独でのブース出展が困難な芸術団体にとって有効であり、さらには参加プレゼンターにとってもより多くの芸術団体の作品に触れられることともなる。今後は、複数の芸術団体を紹介する地方の館に向けて、TPAM ショーケースとのセット参加の方向も提案してゆきたい。

また、事務局では上記、TPAM ショーケースとのセット料金の設定など、実演を見せるプログラムの拡充を推進してきたが、今年の TPAM では、全ブース出展団体の 4 分の 1 が TPAM ショーケースも行なったことも特筆すべき点と言える。ブースと併せてヴィジュアル・プレゼンテーションにも参加した団体は 10 団体、イン

ターナショナル・ショーケース参加団体も含めると、約半数の団体がブース出展だけでなく他のプログラムにも参加している。ブースを会期中の拠点としつつ、他のプログラムで実演や映像を見せるという参加の仕方は今後も増えて行くと思われ、ヴィジュアル・プレゼンテーション参加団体への1日ブース提供なども視野に入れたプログラムの工夫を考えるべきであろう。

その他、例年、各国の大使館や文化センターなど統括団体での参加が多い「海外団体」部門に、今年は単独の劇団、ダンス・カンパニーの参加があり、参加団体数も10団体に上るなど海外からの需要も徐々に増えつつある。海外からの参加団体はブースを持つことを必須と考えると思われるが、来年以降は、TPAM ショーケースへの参加にも門戸を広げ、より国内外で差のない参加形態とすることを検討したい。

## 05. ヴィジュアル・プレゼンテーション

### ■参加団体■ 計 29 団体

#### <ダンス> 3月5日(木) 13:00~15:30/恵比寿ザ・ガーデンホール 計 11 団体

井上節子バレエ・シアター  
大橋可也&ダンサーズ  
スペクタクル・アート (オーストラリア)  
ハイウッド  
パパ・タラフマラ  
ブリティッシュ・カウンシル  
マドモアゼル・シネマ  
三代真史ジャズ舞踊団  
MOKK  
Yuzo.Ishiyama/A.P.I.  
レニ・パッソ



#### <演劇・音楽> 3月6日(金) 13:00~15:30/恵比寿ザ・ガーデンホール 計 11 団体

ARICA  
開幕ペナントレース  
花伝 [KADEN] シアターカンパニー  
壁ノ花団  
サイエンス・プロジェクト  
日本ろう者劇団  
FUKAIPRODUCE 羽衣  
ベラルーシ・フリー・シアター (ベラルーシ)  
ミクストメディア・プロダクト  
舞太鼓あすか組  
モロ・ミュージック [The forest, KIM Yong-Woo] (韓国)



©Horinouchi Takeshi

#### <劇場・ホール> 3月7日(土) 12:45~14:15/恵比寿ザ・ガーデンホール 計 7 団体

青山劇場・青山円形劇場/スパイラルホール  
NPO 法人コンカリーニョ  
金沢 21 世紀美術館  
京都芸術センター  
高知県立美術館  
財団法人かすがい市民文化財団  
山口情報芸術センター [YCAM]

## ■総括■

今回で3回目となるヴィジュアル・プレゼンテーションは、劇団などの芸術団体のほか、国内各地から劇場が参加し、合計29団体が3日間にわたりプレゼンテーションを実施した。

これまで本プログラムに参加するのは芸術団体が主であったが、前回の東京芸術見本市2008終了後に、自主事業を制作、実施している複数の劇場から、国内外のプレゼンターに自主制作作品を広く紹介したいという要望があり、劇場・ホールのプレゼンテーションとして1日を設けることとした。今回はブース・プレゼンテーションにおいても劇場の参加が多かったが、特に自主事業を制作する劇場が自館で作品を上演するだけでなく、国内外での作品上演の機会を求めており、そのプレゼンテーションの場として東京芸術見本市が活用されているという背景がある。

実施方法としては、これまで同様に、作品の映像を主体として見せるプレゼンテーションと位置づけ、紹介する作品については、上演が実現しやすいように作品のスペックを記載した資料である「ツアー・インフォメーション」を配布した。

劇場でのプレゼンテーションにおいては、多くの劇場が施設についても紹介しており、どのような方針で自主事業を制作しているかということもわかるプログラムとなった。

また、今回は、昨年の参加団体からの要望を反映して、プレゼンテーションの順番をレジストレーションの際に配布するプログラムに記載し、プレゼンターが目的の団体のプレゼンテーションに参加しやすいように工夫した。1団体につき10分という持ち時間のなかで実施するプログラムではあるが、実施後、参加団体のなかには、プレゼンターとコンタクトを取り上演に向けての話が進んでいる団体もある。

今後の課題として、参加者をどのように会場へと誘導するか、プレゼンターとのより効果的なマッチングの方法の検討などが挙げられ、他のプログラムのスケジュールとの兼ね合いを考慮しつつ、取り組んでいきたい。

## 06. TPAM ショーケース

■参加団体■ 計27団体 ※二重カギ括弧内は公演タイトル

<ダンス> 計10団体

パパ・タラフマラ 『三人姉妹』

アトリエ・エルスール 『詩脳ライブ』

BATIK 『another BATIK』

ICiT -インディペンデント・コレオグラファーズ東京- 『ICiT ダンスショーケース2009』

アंकリエイティブ 『Tokyo Dance Market 2009』

aki nagatani & danscapes 『俺にもセックスを』

謹成祝花 『呼吸』

NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN) 『踊りに行くぜ!! vol.9 SPECIAL IN TOKYO』

レニ・バツソ 『ElephantRose - no land -』

マドモアゼル・シネマ 『赤い花 白い花』

## <演劇> 計13団体

燐光群『屋根裏』

青山円形劇場『KOUSKY VI ～沢則行 meets 中西俊博～』

ノアノオモチャバコ『double face』

R PRODUCTION『21世紀日中舞台芸術交流プロジェクト 十人の夜』

開幕ペナントレース『振り返れば俺がいる ～杉並演劇祭参加バージョン』

極楽歌劇団『蝶子と吉治郎の家 ～貧乏神旅立ち篇～』

ストアハウスカンパニー『Ceremony II』

ミホプロジェクト／茂山あきら国際プロジェクト『chori／童司』

劇団解体社『無機的 — 人体主義者・有機の彼方へ・ワタシヲ監禁シタイノナラスルガイイ』

劇団 阿彌『観世栄夫追悼公演 ア・ミ・ナ・ダ・ブ』

北九州芸術劇場『風街』

OM-2『作品No.6 -LIVING II-』

快快『MY NAME IS I LOVE YOU』

※ 参加予定だったテアトル・リネア・デ・ソンプラ（メキシコ）は諸事情により公演中止

## <音楽> 計4団体

声明の会・千年の聲 『スパイラル「声明」コンサートシリーズvol.17 星曼荼羅 古代の星占い — 「咒立北斗法」』

打打打団天鼓『打打打団天鼓 和太鼓コンサート — 和太鼓サスペンス劇場』

GONNA『和太鼓×マリンバ GONNA ～前代未聞の打楽器アンサンブル、60分濃密勝負～』

宮西 希『KOTOパフォーマンス & セッション 2009』

## ■総括■

本年は、昨年の方法を踏襲しながらも、TPAM 参加者がより観劇しやすい環境を整えることを目指した。東京芸術見本市期間前後の2月28日（土）～3月8日（日）までの9日間をTPAM ショーケース期間とし、参加団体を募った結果、昨年と比較して7団体多い27団体が参加し、88公演を実施した。

実施にあたって、まず、恵比寿ザ・ガーデンホールに近い会場での上演を増やすために、予め事務局で劇場を仮予約し利用希望の団体を募集したところ、2団体がシアター代官山を利用した。事務局が仮予約をした劇場のほか、積極的に恵比寿周辺の会場で上演する団体もあり、本プログラムへの認知が高まりつつあることを実感した。

また、昨年の課題であった会場までのアクセスについては、参加団体側が観劇希望者を恵比寿ザ・ガーデンホール／ルームまで迎えに来てもらう、迎えの人を出してもらうことが難しい団体に対しては、TPAM のボランティアスタッフが恵比寿ザ・ガーデンホールから各劇場まで送り届けるという方法によって、海外参加者にとっても参加しやすいプログラムとすることができた。加えて、3月3日～7日の間に実施会場にて設置していた予約受付デスクでは、公演ごとに、上演時間、会場までのアクセス、会場周辺地図、会場まで同行するスタッフとの待ち合わせ時間と場所を記載した公演情報を作成し、観劇希望者に配布することで、プログラムに掲載しきれない情報をフォローし、伝えることができた。

今後は、参加団体にとってはより利用しやすいシステムづくり、観劇希望者にとっては多様性のある実演を提供できるプログラムづくりを努めたい。見本市実施会場周辺の劇場での上演をさらに増加し、上演会場との本催事との連携を深めることを目指したい。

## 07. セミナー

### ◆日本におけるコミュニティダンスの現在と可能性 II

3月5日(木) 10:00~12:00/日仏会館

モデレーター：佐東範一 [NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN) 代表]

スピーカー：横山恭子 [(財) 福岡市文化芸術振興財団 事業課事業係 事業コーディネーター]

東京芸術見本市でコミュニティダンスに関するテーマを取り上げてセミナーを実施するのは今回で3回目となる。過去2回のセミナーにおいては、英国でコミュニティダンスが生まれた背景、その歴史、現在の活動を紹介するとともに、日本国内でダンスが持つ可能性について紹介してきた。

今回は、日本国内の地域におけるダンスの活動として「Dance Life Festival 2008」(札幌、富山、山県、多治見、福岡、京都、東京にて実施)について、福岡での事例を挙げて紹介することとした。

まず、モデレーターである NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (以下、「JCDN」と表記) の佐東範一氏からコミュニティダンスに関する基礎知識と国内でのコミュニティダンスの活動について説明があった。

コミュニティダンスは、あらゆる人にダンスをする機会を創るという考えのもと、英国で芽吹き、各地に広がった活動である。その対象は、子どもから高齢者、障がいのある人、貧困層、各種更生施設をはじめとする多様なコミュニティで、ダンスのアーティストが対象となる人々にダンスの機会を創出している。

日本においてもコミュニティダンスの活動はひろがりつつあるが、その理由としては、ダンスが現代社会に求められている下記の3つの力を育てることができるアートの1つとして考えられているからである。

1. 自分の身体を使って表現する力
2. ゼロから何かを創造する力
3. 他者とコミュニケーションする力

英国にはコミュニティダンス財団という団体があるが、2001年の調査によると、英国でコミュニティダンスに参加した人は480万人、観客数は1,040万人にのぼっている。このように多くの人々が参加するまでに至った要因は、英国がダンスを実施する仕組みづくりと基盤を作ってきたためである。

英国ではこの30年のあいだに、コミュニティダンスが発展してきたが、その社会的な背景には、英国の産業の衰退、それに伴う地域コミュニティの崩壊などがあり、人々の関係は疎遠になっていった。こうした状況を変えるために、さまざまな試みを実施されてきたが、国民ひとりひとりが創造力＝クリエイティビティを持つことが最も重要であるという結論にたどり着いた。

クリエイティビティを育てるためには、いろいろな方法があるが、そのなかでもダンスが大変有効であるとの検証がなされ、国をあげてダンスの環境整備に取り組んでいるという状況がある。そして、クリエイティビティを育てる以外も、少年少女の厚生施設においてや、健康面など様々な社会的課題を解決するためにもダンスが有効であるとの調査結果が出て、ますますダンスが国にとって重要視されている。

英国の事例に続いて、現在、日本でのコミュニティダンスの活動を実施している以下の団体の活動やアーティストに触れた。

NPO 法人芸術家と子どもたち、NPO 法人子どもとアーティストの出会い、(財) 福岡市文化芸術振興財団による「芸術交流宅配便」、財団法人地域創造による「公共ホール現代ダンス活性化事業」、ミュージカンパニー、エイブル・アート・ジャパン、ダンスボックス循環プロジェクト、Dance & People、みやぎダンス、岩下徹さん、など。

少し例を挙げると、NPO 法人芸術家と子どもたちでは、ASIAS (エイジias) という、アーティストが小

学校へ行って学校の先生と協力しながら、ワークショップ型授業を実施する活動を幅広く行い多くの実績を積み上げている。京都のNPO法人「子どもとアーティストの出会い」では、小学校の理科の授業にダンスを取り入れたプログラムを提供している。それは、現在、理科や算数は生徒間で理解度の差が特に大きくなっており、通常の授業をダンスを通して身体を動かしながら実験などを行うことによって原理や法則の理解度を深めることに役立っている。

また、エイブル・アート・ジャパンでは、障がいのある人たちと創る舞台作品製作をサポートする「エイブルアート・オン・ステージ」を数年にわたって実施し、各地で新たな試みが生まれ継続する活動となっている。

現代の日本の社会の様々な問題——コミュニケーション能力の低下、想像力と創造力の欠如など——を見ると、このコミュニティダンスの持っている力をもっと日本の中で発揮していくべきであると考えている。しかしこのように国内でコミュニティダンスの活動を実施している団体やプロジェクトをいくつも例に挙げられるものの、それらの活動がもうひとつ広がっていきにくいように感じている。それは経済的な問題も大きいですが、広げていくための方法論をもっと全体で考えていくべきなのではないかと思う。それを今後具体的に進めていきたい。

まず、コミュニティダンスに関する情報を集約し、それを広く伝えることが重要である。現在、国内各地でダンスの活動は行われているが、どこでどのような活動があるのかが、ひと目でわかるようなものがない。各地で実施されているダンスの活動の情報をマッピングし、発信する必要がある。そして学校、行政、NPO法人、病院などと継続的な関係性を築いていくこと、さらにそれら他分野とのネットワークを創っていきたくと考えている。これはダンスに特化したことではなく、社会におけるアートの位置はこれまでとは変わっていく必要があるという言葉で前半は締めくくられた。

後半は、具体的な国内におけるコミュニティダンスの活動事例として、財団法人福岡市文化芸術振興財団の横山恭子氏からダンス事業を紹介して頂いた。

財団法人福岡市文化芸術振興財団（以下、「財団」と表記）は文化施設を持たない財団として1999年3月に発足し、本年は10周年を迎える。財団発足当初よりダンス事業を実施してきた。これまでの事業として、福岡以外の地域からダンサーを招いて、長期のワークショップと作品の発表をするプロジェクトである「ダンスジェネレート福岡」、博多という地域をテーマに地域の人々がダンスを創作し、発表したアメリカのリズ・ラーマン・ダンスエクステンジによるワークショップ、博多灯明ウォッチングにて発表するダンス作品づくりのワークショップ、障がいのある人とない人がともに参加するワークショップなどがある。

このように「コミュニティダンス」という言葉を知る以前から、財団としてダンス事業を実施してきたので、もともとの素地があった。

「Dance Life Festival 2008」においては、インドネシア・バリのケチャックダンスのワークショップ（以下、「ケチャ」と表記）、リズ・ラーマン・ダンスエクステンジワークショップ、イギリスのストップ・ギャップ・ダンスカンパニーワークショップという3事業を実施。実際のワークショップ、作品発表の様子を、映像を交えながら紹介した。

ケチャは子供から大人までが参加できるダンスであり、また、福岡はアジアとの文化交流に取りくんでおり、ケチャはまさにアジアにおけるコミュニティダンスであるということを実施することとなった。ケチャのワークショップには、子供から大人まで参加し、参加者のなかには親子もいた。最初、とまどいがみられた参加者も徐々に大声を出したり、リズムを取っていくのに慣れ、発表会では参加者がみな集中して、気持ちをあわせることができた。他のワークショップと比べて子供の参加が多かったことが特徴であった。

リズ・ラーマン・ダンスエクステンジは、メンバーが20代から70代の年齢で構成されているカンパニーである。このワークショップでは、一般クラスとシニアクラス（50代以上）の2つのクラスを設け、「change」というキーワードをもとにダンスを創作した。発表の場は福岡アジア美術館で、劇場とは異なる場所での上演は、発表者、観客ともに新鮮な体験であった。下は10歳、上は78歳まで、幅広い世代の人が参加し、世代を超えた交流の場ともなった。

最後にストップ・ギャップ・ダンスカンパニーのワークショップについて触れられた。ストップ・ギャップ・ダンスカンパニーは、障がいのある人と障がいのない人から構成される英国のダンスカンパニーである。メン

バーには、車椅子の人、ダウン症の人、聴覚障がいのある人などがいて、各ダンサーが持つ個性や身体能力を活かした作品づくりを行っている。ワークショップには、障がいのある人、ない人ともに公募で集まった26名が参加した。ストップ・ギャップ・ダンスカンパニーのワークショップの特徴として、まず、全員が椅子に座ってワークショップを開始する。これは車椅子の人もメンバーにいるカンパニーならではの発想で、誰もがワークショップに参加しやすいようにしている。5回のワークショップ終了後、参加したメンバーによる発表会、そしてストップ・ギャップの公演を実施した。

最後に、今後の課題について触れられた。まず、第一に、地域の団体とのパートナーシップを築いていくことが挙げられた。今はまだ、地域の団体に財団の企画をもちかけて、場所を貸してもらって事業を実施させてもらう、といういわば“片思い”の状態である感は否めない。地域の団体とコミュニケーションを深め、地域の課題やニーズを把握しながら企画段階から一緒に取り組めるような、関係を築いていきたい。

第二に、継続性をもった事業の実施。資金面において、今はまだ「助成金がとれたらやる、とれなかったらやらない」というのが現状。そうではなく、定期的に、継続的に実施できるようにしていきたい。地域にさらに密着するためにも、また資金的な課題を解決するためにも、これまで育ってきた地元のダンサーがワークショップにおけるファシリテーターを育成することを今後の展望のひとつとして考えている。

#### ◆財団法人地域創造主催セミナー

##### アウトリーチを検証する！

～文化・芸術による地域交流プログラムの新たな可能性を考える～

**3月6日（金）10:00～12:00／恵比寿ザ・ガーデンホール（ヴィジュアル・プレゼンテーション会場）**

**共催：社団法人 全国公立文化施設協会**

**言語：日本語／英語同時通訳**

**コーディネーター：吉本光宏 [(株) ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室長]**

**パネリスト（五十音順）：**

**大月ヒロ子 [ミュージアムエデュケーションプランナー、(有) アイデア代表取締役]**

**奥村高明 [国立教育政策研究所教育課程センター教育課程調査官]**

**堤 康彦 [NPO 法人芸術家と子どもたち代表]**

**津村 卓 [地域創造プロデューサー]**

**中村 透 [琉球大学教育学部教授]**

昨今、アウトリーチなどアーティストと地域や住民との交流を促進するプログラムは、文化・芸術の普及や、地域とホールとの関係性を深めるのに有効であると認識され、多くの公立文化施設や文化財団、NPOなどで、積極的に取り組まれてきた。

しかし、急速な広がり一方で、形式的な取り組みにとどまっているものも多くある。また、指定管理者制度の本格的な導入が始まり、公立文化施設の運営における政策評価が求められる中、アウトリーチ事業をどう館の中で位置づけ、評価していくのかも問われている。

こうした状況を背景に、地域創造では20年度、21年度の2カ年に渡って、「文化・芸術による地域政策」をテーマに地域交流プログラム（アウトリーチなど）のあり方についての調査研究を行っている。今回のセミナーはその調査研究に絡めて、演劇、音楽、ダンス、美術、教育の専門家をパネリストに招き、教育分野等での文化・芸術の新しい可能性などを紹介しながら、そのあり方を検証した。

コーディネーターの吉本氏の進行により、アウトリーチの現状と問題の整理や各事例紹介や今後の展開について議論が行われた。

まず津村氏が地域創造の推進してきたアウトリーチ事業を踏まえ、何を目的に学校へ芸術を運ぶのか、誰がアウトリーチを行うアーティストの育成するのか、コーディネーター不足など、アウトリーチの現状と課題を

提示された。

堤氏からはコーディネーターの立場から、これまで1万5,000人の子どもたちにアーティストとの出会いを提供してきた経験や、現代美術のアーティストが小学校へ短期滞在をした事例など紹介していただいた。

大月氏からは美術館・博物館の教育普及事業の専門家として、美術教員と学芸員が美術鑑賞教材を共同開発した事例や、コレクションを活用した回想療法の事例、トラックを美術館にした移動ミュージアムの事例などを紹介していただいた。

奥山氏からは学校教育の立場から、アートと教育の役割や業界言語の違いなどを整理しながら、アートを媒介に孤立化した社会の繋ぎ直しの可能性を紹介していただいた。

中村氏からはご自身の活動や各パネリストの事例を踏まえて、「アウトリーチ」ではなく相互関係によって行われる「クロスリーチ」であるのではないかとお話しいただいた。

最後に、各パネリストから出てきたキーワードをもとに、クロスリーチの必要性や、教育や医療や福祉、世代間の問題など、社会的な課題とコミットすることの効果や可能性などについて話し合われ、「各地域でもう一度アウトリーチを行う目的を検証し、その役割を改めて考えることが必要ではないか」という言葉でセミナーは締めくくられた。

## ◆舞台芸術における情報発信について考える～フライヤーからインターネットまで～

3月7日(土) 10:00~12:00/恵比寿ザ・ガーデンホール(ヴィジュアル・プレゼンテーション会場)

言語:日本語/英語同時通訳

モデレーター: 小沢康夫 [プロデューサー/日本パフォーマンス/アート研究所代表]

スピーカー:

安藤光夫 [株式会社エンタテインメントプラス(☎+) 営業二部(演劇・クラシック)部長]

小崎哲哉 [『REALTOKYO』『ART iT』編集長]

杉浦太一 [株式会社CINRA 代表取締役社長]

松本弦人 [グラフィックデザイナー、アートディレクター]

ここ数年で、さまざまな媒体、方法によってこれまで以上に多くの舞台芸術に関する情報が発信されるようになったが、情報量の多さ故に、伝えたい情報が必要としている相手に的確に伝わっているのか、多様な発信方法を上手く使うことができているのかという悩みを制作者は抱えている。

まずモデレーターの小沢氏より、一制作者の立場から当セミナーの企画意図について発言があった。氏が制作会社を立ち上げた2003年当時は、「インターネットと英語」を駆使すれば既存の制作会社に対抗できると考えたと言う。自社のウェブサイトを開設し、情報を発信し、チケット予約を受け、また海外のフェスティバルや劇場とのやり取りもメールで行った。それと比例する形で、インターネットという新しいメディアがテレビ、新聞などのマスメディアに次ぐ第3のメディアとして重要になるだろうと予測していたが、5年たった今、公演の宣伝方法だけがあまり変化していない現実がある。

実際、チラシ折込みサービスを行なう会社Nextのレポートによると、ここ数年、一公演当たりのチラシの折込み枚数は増加している。小沢氏は、個人的な見解としてその理由を下記のように分析した。①テレビ、新聞などのマスメディアにおいて演劇やダンスなどを取り上げるコーナーが減少していること、②都内、関東地域において新しい公共ホールが建設されていること、③舞台芸術への助成が定着し、助成を示すロゴマーク等を掲載するためにチラシを作成しなければならない現実があること、④ライブの観客が増加していること(ぴあ総合研究所データによる)。

当セミナーでは主にインターネットによる情報発信を仕事としている方々をスピーカーに招き、それぞれがどのような情報提供の仕方をしているのかを簡単に説明いただいた後、「500名の観客を倍増させるには？」

という間に答えるかたちで舞台芸術における新しい宣伝方法について提案をいただいた。

小崎氏が編集長を務める『ARTiT』（2003年創刊）は、欧米の陰に隠れて専門家でも情報を得ることが難しい、韓国、中国、台湾などアジア・パシフィックの現代アートを扱う季刊のアート雑誌で、プレビュー、ニュース、インタビュー、特集、レビュー、エッセイなどで構成されている。ウェブサイトでは、本誌からの転載記事のほか、オリジナル・コンテンツ、アジア・パシフィックの主要な美術館・ギャラリーの展覧会情報をリアルタイムで更新する展覧会カレンダーを掲載。また、共に編集長を務めるウェブサイト『RealTokyo』は、東京を中心に関東一都六県のカルチャー情報全般（映画、ステージ、音楽、アート、ブック、ディスクなど）を扱い、「プレビュー＝ツール＝情報」、「署名原稿＝メディア＝オピニオン」という位置づけをしつつ、毎日更新されている。

『ARTiT』『RealTokyo』の大きな特徴は日英で発信されていることだが、①東京で行われているイベント情報がほとんど日本語のみの中、海外の人々にとって英語での発信が必要であること、②同じメディアを日英で読むことによって、偶然に出会った人々が言語の壁を越えて語り合うことができ、そのことがシーン全体の活性化につながるものが、バイリンガルで発信することの意義である。

また、美術と周辺ジャンルとの橋渡しをするのがメディアの役割であり、舞台関係者だけでなく音楽、美術など様々なジャンルの人々が関わるパフォーミング・アーツはそのハブとなる芸術分野である。例えばアートにしか興味の無い人々にもコンテンポラリー・ダンスの情報が届くようにするような「クロスジャンルの情報発信」によって他ジャンルに興味を抱いている人々を巻き込んでいくのが、潜在的なマーケットの開拓につながる。

さらに、google カレンダーや amazon などでは、自分の興味のある情報をインターネットから引き出すこともできるようになっており、今後その精度を高め、カスタマイズすることも可能なのではないかと。重要なのは、競争原理に立つのではなく、舞台業界で知恵を出し合い、そのシステムを共通のインフラとすることであると強調された。

安藤氏が勤務する「e+」は、インターネットでアミューズメント全般のチケット予約・販売を手掛けた初の会社である。①会員登録制を導入し必要な情報だけをメール配信しているほか、②抽選型の先行予約（プレオーダー、手数料有）によって良い席を提供、③割引チケット販売（得チケ）、④コンビニでのチケット受け取り、⑤公演直前のチケットを手数料 0 円で提供（すぐチケ）、⑥座席選択システムの導入などのサービス・イノベーションを実施してきた。

最近では、「だれでも、いつでも、どこでも買える」、購入の利便性を追及し、チケット販売の委託者（＝主催者）自身が公演データを入力できる「ウェブ・オープンシステム」を開発、さらに、「エンタメ市場」では所謂人気チケットでないものにも光を当て、安価な登録・手数料で携帯からも登録ができ、リアルタイムでの売れ行き確認、手売りの場合の仕組みも加えたシステムを開発、演劇、ライブなどのジャンルをまたいで、「笑えるもの」「ファミリー向け」「癒し系」などのキーワードで検索を可能にした。

観客動員の方法としては、まず主催者・アーティスト側が、自分の HP に公演企画書、宣伝画像、宣伝映像、チラシ pdf、関係者のブログに貼ってもらうためのブログパーツ、リンクバナーなどを用意し、編集者やライター、影響力の大きいブロガーが使いやすい宣伝材料を用意する。また、HP にメールマガジン登録機能を設けてメールアドレスを収集しメールマガジンを配信したり、mixi や MySpace など同好の趣味をもつ人々が集まるスペースでネット仲間を増やすこと、ポータルサイトやプレイガイド、注目されている各種ブログ、ネットで活躍するライター、同業者などに情報や招待状を送り、公演を見に来てもらい知り合いを作ることを、地道ではあるが基本的な手段であろうと述べられた。

さらに応用編として、影響力をもつ舞台人・文化人をアフタートークのゲストに招き、その人の人気によって告知を広げたり、SEO 対策に有利なカンパニー名・公演名をつけ、そのカンパニー目当てで検索しなくてもヒットするための研究や、ネット同時中継での同時多発ダンスイベントなど、劇場から出て、新しいアーティストと観客の関係を作る実験的な試みにも可能性があるのではないかとという提案がなされた。

杉浦氏は学生時代にウェブサイト「CINRA」を立ち上げ、音楽・アート・映画・演劇などカルチャーイベントの情報配信を軸に、独自の特集、インタビュー記事を配信しているほか、新たな観客を創出するべく無料のライブイベントを毎月開催したり、ウェブ・コンサルタント業務を行なっている。

公演宣伝の手段としては、①すでにあまり機能していないと思われる mixi のコミュニティで告知するだけでなく、日記などで「人間味の伝わる情報発信」をする、②ネット上だけでなく、街頭でゲリラ的にパフォーマンスを行なう、③収益にはつながらないが、観客の間口を広げるために、チケット購入者ひとりにつき同伴者ひとりを招待する、④ネット上でつねにオープンにコメントや感想を書き込めるようにする、⑤掲示板を用意するだけでなく、コメントを書き込んだ人に抽選でプレゼントを用意するなど、従来の宣伝手法も試してみる、⑥広告営業でスポンサーをつけ、その分をネットの広告費へ当てる、などの提案があった。

松本氏は、ウェブ上で誰でもが簡単に「本」をつくれるサイト「BCCKS」(ブックス)を運営。「もうひとつの本の形」を提案する当サイトでは、個人が「本」をアップできるほか、出版社と提携して新人作家の作品が読める企画なども実施しており、出版社リトルモアと「写真集公募展」を行った際は 640 冊の応募があった。通常の公募展では入選したものが展示されるが、「BCCKS」の場合は公募を始めた時点からの全作品を見ることができ、アップされた作品のクオリティの高さが、さらにより作品の応募を呼んだ。雑誌『スタジオボイス』との企画では、書評、映画評、CD レビューなどの記事を公募して約 900 ページの「本」にし、その中で優れたものは本誌に掲載、原稿料も支払という試みが進行中である。

「BCCKS」は「本」をつくる“仕組み”を提供しただけだが、そこへ強い思いがこめられたたくさんの作品が集まり、ある種のオーラのようなものが生まれ、それが紙媒体である本誌のつくりかたへも影響を与えている。このように一般の人が、アンケートに答えるというような従来の参加の仕方ではなく、実際のものづくりにかかわるようなことを考えているという。

集客の手段としては、目に付くフライヤー、心に残るサイト、捨てられない DM をつくるのが効果があるのではないかと、フライヤー自体が保存されなくても、いい情報、いい言葉として記憶されることが大切であると、デザイナーとしての実感を語られた。

TPAM 開催直前の 2 月にはチラシを冊子にまとめ、インタビュー記事などを掲載した『ステージぴあ』が創刊され、チラシに代わる紙媒体を模索する新たな試みもある。上記 4 名のスピーカーはネットによる情報発信の先端に行く仕事をしながら、ネットだけによらない宣伝方法も提案され、公演宣伝のための試行錯誤に様々なかたちで取り入れることのできるアイデアを共有することのできたセッションとなった。



©Horinouchi Takeshi

## 08. インターナショナル・ショーケース 2009

主催：文化庁／企画・制作：国際舞台芸術交流センター

### ◆音楽ショーケース

3月4日（水）17:30～19:00／恵比寿ザ・ガーデンルーム

「音楽」ショーケースでは、あらためて日本語の歌をテーマにディレクションした。その背景としてここ数十年、あらゆる世代に浸透する日本語による歌がなくなってしまった事や、CDの売り上げが激減し、従来のレコード会社主導の音楽産業構造が変革しているという事がある。では、日本語による歌をこの先我々自身必要とするのか。その問いは日本語が世界共通言語としての普遍性を持たず、「現地語」（水村美苗『日本語が減びるとき』筑摩書房刊）としてしか生き残る事ができなくとも、日本語で思考し生活する現実が存在する限り、日本語による歌は存在し続けるだろうし、作り続けられるであろう。

但し、三上寛や友川カズキのような独特な言語感覚、詩をこの先新しい世代が受け継ぐかどうかは、今回の企画のようにあえてパブリックな場所で彼らの歌が歌われる機会を作らなければどんどん消え去るのみであると言える。それはひとえに我々文化芸術をになうプレゼンター達の真摯な姿勢が問われているとっていいのではないだろうか。

このショーケースでは海外からのプレゼンター達のために英語による字幕制作を提案したが、友川カズキだけその提案を了解し、翻訳の質及び字幕操作の絶妙なタイミングにより、幾人かの海外プレゼンター達にその本質は届いたようで、また現実的に海外公演が成立する予定だと聞いている。

### 三上 寛

出演：三上 寛（vo, g）

演奏曲目：

- 「散る葉の後に降る雪の意味も知らず」（詞・曲：三上寛）
- 「カラス」（詞・曲：三上寛）
- 「犯されたら泣けばいい」（詞・曲：三上寛）
- 「戦士の休息」（詞：寺山修司、曲：三上寛）
- 「『ユリ』の主題」（詞・曲：三上寛）
- 「美術館」（詞・曲：三上寛）



©Miyuchi Katsu

### 友川カズキ



©Miyuchi Katsu

出演：友川カズキ（vo, g）

演奏曲目：

- 「星を食べた話」（詩：稲垣足穂、補作詩・曲：友川カズキ）
- 「夢のラップもういっちょう」（詩・曲：友川カズキ）
- 「むそじのブランコ」（詩・曲：友川カズキ）
- 「絵の具の空」（詩・曲：友川カズキ）
- 「イナカ者のカラ元気」（詩・曲：友川カズキ）
- 「ピストル」（詩・曲：友川カズキ）

英語字幕作成・操作：新井知行

## ◆ダンス・ショーケース

3月5日(木) 16:20~18:20 / 恵比寿ザ・ガーデンルーム

「ダンス・ショーケース」では、いわゆる「ダンス」するという身体表現行為にフォーカスをあてるのではなく、「身体」そのものについて深く思考し、それを実践するアーティスト達をディレクションした。それはスポーツのように万人に判りやすいカタルシスを提案する物ではないため、幾分判りづらいプレゼンテーションだったかもしれない。しかし、「ダンス」という芸術行為が従来通りの「型」に収まる限り、これから世界が私たちに与えるであろう試練には耐えうる事が出来なくなるだろうと予測できる。つまり、「コンテンポラリー・ダンス」は「身体」というメディア(媒体)を使って、我々の生を根本から見直すような物でなくては、いらないのではないか、とまで考えなくてはならないだろう。

そうしたときに、ただ単に「美しい」「技術を持っている」というような観点で見るのではなく、何故、アーティストがこういった身体のあり方をプレゼンテーションしなくてはならなくなったのかを一緒に考えて考える事が大事な事ではあるまいか。

我々は新しい世紀の表現を模索するために、形骸化した制度の中で身を守るのではなく、なによりもさらなる冒険が必要とされているし、そういった表現をパブリックな場所でプレゼンテーションしていく度胸が必要であると考える。

惜しむべきは彼ら彼女達の表現と一緒に考えるすべとしての「アフタートーク」を開催するべきであったということは書き記しておきたい。

尚、手塚夏子のショーケースについては、韓国の主要ダンス雑誌『MOMM』に批評が掲載された。



©Miyachi Katsu

### 神村 恵

出演： 神村 恵

作品タイトル： 『斜め向き』

### 鈴木ユキオ

出演： 鈴木ユキオ

作品タイトル： 『言葉の先』



©Miyachi Katsu



©Miyachi Katsu

### 手塚夏子

出演： 手塚夏子

作品タイトル： 『プライベート トレース 2009』

英語字幕作成： 岸田明子

英語字幕操作： 新井知行



## ◆ソウル舞台芸術見本市ショーケース：劇団ティダ

3月7日（土）16:40～17:10／恵比寿ザ・ガーデンルーム

2005年の立ち上がりより提携し、ショーケース・アーティストの交換を行なっているソウル舞台芸術見本市から「劇団ティダ」を招聘した。

劇団ティダは、2001年に韓国芸術総合学校の卒業生8人によって設立され、「リサイクル＝再循環」に力点を置きながら、開かれた「自然調和的演劇」を作り続けている。「自然から借り受けたものは自然に帰され、そこで新たな力を得る」という理念のもと、東西の道化演技術の伝統、パペット（人形）、仮面、音楽を取り入れ、観客の体験を拡張するパフォーマンスの手法を探求している。アジアと米国で多数の受賞実績があり、2002年と2003年には、ASSITEJ（国際児童青少年演劇協会）の会議とフェスティバルのため日本に招かれている。

『ハルツの物語』はソウル児童演劇賞の作品賞、劇作賞、演技賞、美術賞を受賞したカンパニーの代表作で、紙製の韓国の伝統的人形、仮面、リサイクル材料で作られたパーカッションを使い、韓国のおとぎ話を通して欲望、家族愛、コミュニケーションの問題を探求した作品である。今回は原作の一部の上演ではあったが、日本語と英語の字幕付きでの舞台で、作品のメッセージを伝え得るステージとなった。

### 劇団ティダ



©Miyachi Katsu



©Miyachi Katsu

作品タイトル： 『ハルツの物語』

演出： BAE Yo Sup

出演： HWANG Hye Ran / KIM Hui Jeoung / JEONG Hyun Seok / CHOI Jae Young / MYUNG Hyun Jin

字幕翻訳： KIM Seil

字幕オペレーター： BAE Yo Sup

ステージ・マネージャー： LEE Hyun Ju

協力： SPAC - 静岡県舞台芸術センター

制作： KIM Duk Hee

## ◆ポータブル・シアター ロトザザ『エチケット』

3月5日(木)～7日(土) ブース・プレゼンテーションオープン時間

恵比寿ザ・ガーデンホール内 TPAM カフェ

ロトザザの『エチケット』は、カフェやバー、ラウンジなどのスペースで1回につき2人の参加者が体験する約30分間のパフォーマンスである。このパフォーマンスは、各参加者がヘッドホンから聞こえてくる指示に従って、台詞を言い、用意されたミニチュアの小道具を操作することによって成立するようにデザインされている。

最も「なま」の状態での「演劇」である『エチケット』では、DVDプレーヤー、ヘッドホン、簡単な小道具を使って、話すべきことを準備せずに話し、自分が「演じている」という状況を受動的に体験するというスリルを体験することができる。会話は「観客」と「俳優」の役割がいつの間にか作られ、またすり替わるようなある種の「演劇」として作品に導入され、英国の主要紙「ザ・ガーディアン」では、『エチケット』は言葉と意味の落差を探求する。公共空間の中に完全にプライベートな空間を作り出し、そこで常軌を逸した物事が起こる」と評されている。

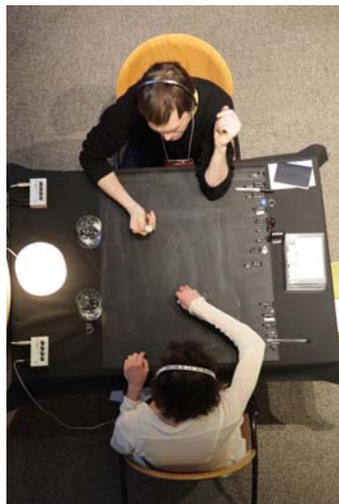
現在、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ドイツ語、オランダ語、ポルトガル語、ギリシア語、スロヴェニア語、日本語版が用意され、世界各地でパフォーマンスが行なわれているが、今回の国際ショナル・ショーケースでは日本語版と英語版を用意し、会場内のカフェスペースで計28回実施した。参加者が各回2人に限られることから事前にウェブサイト上で予約を受け付けたが、人でのぎわうカフェスペースの片隅で行なわれている出来事に目を留めた参加者から当日の参加申込みもあった。最終的にはすべての会が埋まり、さらに最終日の7日には参加希望者多数のため追加開催を行ない、体験型パフォーマンスへの関心の高さをうかがわせた。

実施回数：

3月5日： 13：00 / 13：40 / 14：20 / 15：00 / 15：40 / 16：20・・・計6回

3月6日： 10：00 / 10：40 / 11：20 / 12：00 / 12：40 / 13：20 / 14：00 / 14：40 /  
15：20 / 16：00 / 16：40 / 17：20・・・計12回

3月7日： 10：00 / 10：40 / 11：20 / 12：00 / 12：40 / 13：20 / 14：00 / 14：40 /  
15：20 / 16：00・・・計10回



©Horinouchi Takeshi

## ◆映像ショーケース

韓国、中国、シンガポール、インドネシアで先鋭的な活動を継続しているプレゼンターが、ショーケース・ディレクターとして、その多様性故に全体像を描くことが困難である現代アジアの舞台芸術に関して、各自の具体的な作業に基づく考察の映像を用いたプレゼンテーションを行った。

各プレゼンターの主要な作業領域（ダンス、演劇）に即して二つに分け、各ジャンルに精通したモデレーターを配して実施し、活発な質疑応答が交わされ、コンテンポラリー・パフォーミング・アーツのアジアにおける様相の相互学習として意義深いショーケースになった。

### ◇ アジアの舞台芸術①：ダンス

3月6日 [金] 18:00~20:00 / 恵比寿ザ・ガーデンホール内 ヴィジュアル・プレゼンテーション会場

◎ 同時通訳付き

ディレクター：ヘリー・ミナルティ [アーツ・マネージャー、インドネシア]  
タン・フクエン [キュレーター／プロデューサー、シンガポール]

モデレーター：武藤大祐 [ダンス批評家、日本]

タン・フクエンはシンガポールとタイを拠点に、主にコンテンポラリー・ダンスに関して、制作だけでなく批評やドラマトゥルック的な活動も含めた複合的な作業を行っている。今回、アジアにおける「コンテンポラリー」の概念を、現代社会における自己とアイデンティティの問題への知的、批評的アプローチと規定し、それを体現するアーティスト達を紹介した。その多くは伝統的古典舞踊を学んでいるが、「ダンサーが『自己』としてではなく、空間的・時間的形象として舞台に配置されるに過ぎない」古典舞踊に対して、彼／彼女らの作品をアジアのコンテンポラリー・ダンス足らしめているのは「身体とその動き、歴史の批判的再考を通じた自己とアイデンティティの探求」である。

ピチュ・クランチェン（タイ）の『I am a Demon』は、世界した彼の伝統舞踊（コーン）の師匠へのトリビュートであると同時に、クランチェン自身の身体がいかにしてコーンの踊り手として構成され社会に位置づけられるに至ったかを歴史的に考察し、伝統舞踊を脱神格化する自伝的＝批評的作品である。エリ・メフリ（インドネシア）は文化的中心地としてのジャワではなくスマトラに拠点を置き、25年にわたる作業を通して独自の表現哲学を構築。自身の子ども達から成るカンパニーを持ち、伝統舞踊をその最小限の構成要素（時間を引き延ばしたり圧縮したりするテクニックとそうした時間性の中での身体の分節法）にまで還元するミニマリスト的な作品を作っている。ここでは起源への遡及という作業自体が実証的というよりは想像的なものになっており、起源に依拠したアイデンティティの確立よりは現代における身体存在論の構築を指向するものである。ジェコ・シオンポ（インドネシア）はパプア・ニューギニアのジャングル出身。ジャカルタでヒップホップやストリートダンスを学んだが、自身のダンスにおける「身体」の不在に気づき、パプアの伝統舞踊の研究を行った。パプアに根ざす身体性と、ジャカルタの都市文化に浸食された身体性という二つの次元を批判的に展開する作品を作っている。パドミニ・チェター（インド）は、インドのダンスにおけるモダニズムの最初期にダンサーとして活動を開始。その後インドにおけるモダニズムに付随していた東洋的表象の強調という手法を退け、むしろ身体性を最小限にまで還元することで、表象に依拠せずにインド的なものの読解を行うような作品を作っている。ディック・ウォン（香港）は『Encounter』と題された連作で、舞台上でダンサー達に動きをリクエストし、そうした「演出」の行為を通して他者の身体性を解釈し、それぞれの歴史的背景の掘り起こしを行っている。

ヘリー・ミナルティは制作者、研究者としてインドネシアとヨーロッパで活動。タン・フクエンのプレゼンテーションを受けてインドネシアに主題を絞り込み、インドネシアにおける「舞台作品としてのダンス」という形式の成立をスライド資料を交えて歴史的に論じた。

ダンスの舞台化は、オランダの植民地政策下で分割された王室が、尊厳の復活と国家イメージの保持のために行かせた宮廷のためのスペクタクルに始まる。そのための劇場「Wayang Orang Sriwedari」は20世紀まで存続し、王室だけでなく公共の利用にも供された。20世紀初頭には織物工場のドイツ人工場主が、インドネシア人女性労働者が作業中に口ずさむ詩歌をダンスや音楽と組み合わせ舞台作品とすることを宮廷芸術家に進言、インドネシアの宮廷オペラとしてのLangendriyanというジャンルが成立した。しかしこうした宮廷芸術が西洋におけるバレエのように近代化されプロフェッショナルなジャンルへと変容することはなかった。独立後に新しい国家のセルフ・イメージを観光客による消費に供するために国家の保護下で成立した「Sendratari Ramayana」（Sendratariという語は「アート」「ドラマ」「ダンス」の複合語である）というジャンルも、内容において宮廷的要素を排し「普遍的」テーマ（神話、叙事詩）を中心に据えたとはいえ、ジャンルの自主的発展にまでつながるものではなく、むしろ「普遍的言語としてのダンス」という観念で後続世代のダンサー達を必要以上に縛ることになった。

しかし1960年代に文化政策を重要視したAli Sadikin市長によってアート・センター「Taman Ismaili Marzuki」（TIM）とジャカルタ・アーツ・カウンスルが設立され、その委員となったSardono（伝統的ダンスから始め、奨学金を得て米国でダンス研究を行ったダンサー）がワークショップを開催、ロシア・バレエ、ジャワ舞踊、スマトラ舞踊といった様々に異なるバックグラウンドのダンサーを集めて技法やテーマを交流、現在のインドネシア・コンテンポラリー・ダンスの地盤を作った。また、近年大規模な複合的アート・センター「Komunitas Salihara」やゲート・インスティテュート初の劇場「ゲート・ハウス」がジャカルタに作られ、プロフェッショナルなジャンルとしてのダンスの成立を妨げてきた諸障害に突破口が開かれる可能性も生まれてきている。



©Horinouchi Takeshi

## ◇ アジアの舞台芸術②：演劇

3月7日 [土] 14:30~16:30 / 恵比寿ザ・ガーデンホール内 ヴィジュアル・プレゼンテーション会場

◎ 同時通訳付き

ディレクター：

チェ・ソクキュ [チュンチョン国際マイムフェスティバル副芸術監督・AsiaNow プロデューサー、韓国]

チャオ・チュアン [演出家・草台班プロデューサー、中国]

モデレーター：内野 儀 [東京大学教授・演劇批評家、日本]

チェ・ソクキュは韓国において1990年代半ばに始まった新たな演劇表現の探求、とりわけテキストより身体、動き、ヴィジュアル・アートの要素の複合的構成を重視したオルタナティブな演劇言語の探求に焦点を当て、そうした動向を代表するアーティスト、カンパニーを紹介した。

サダリ・ムーヴメント・ラボラトリーの『Woyzeck』はルコック・スタイルに基づく身体技法と汎用的オブジェとしての椅子を用いて心理的イメージを構築し、『Between Two Gates』は戦争と悲惨、生と死といったテーマをテキストを用いずに概念的に表現する。ホン・ソンミンは本来メディア・アーティストであり演劇人ではないが、近年「サイト・スペシフィック・トータル・シアター」を標榜し、ソウル市内の実際に使用されている建築物を使って、演劇、コンテンポラリー・ダンス、ヴィジュアル・アートを複合的に使い、現代の政治的、社会的状況の複雑性に呼応した重層的なナラティヴを構築している。シアター・モンジはパントマイムから始めて1990年代に「韓国的」身体表現の探求に移行した。シャーマンの伝統をベースに、パーカッション、オブジェ、ミニマリストの身体技法を通して現代における「儀式」をコンセプチュアルに再現する。ウォンジュの廃校を拠点に集団創作を続けているノットル・シアター・カンパニーの『Return』は、プレヒトの詩『死んだ兵隊の伝説』に基づき、現代的生活様式における「幸福」の概念を問う。今回、実演のショーケースを行なったティダはテキスト、仮面、パペット、生演奏を融合したトータル・シアターだが、さらに小道具や楽器の製作にリサイクル素材を用いたり、上演場所に負担をかけないサイトスペシフィック・ワークを行うなど、環境に配慮した「自然親和的演劇」を実践している。

チャオ・チュアンの「草台班」は上海を拠点とする政府非公認のカンパニー。自主公演のほかに、国際共同制作や、海外からのアーティストの招聘、フェスティバルの組織なども行うが、政府非公認（「認可されていないが、違法でもない」という状態）であるが故に、公演のチケットを販売することは許されず無料公演という形態で行うしかなく、フェスティバルを「フェスティバル」という呼称を用いて開催することは許されない。これは舞台芸術を行うためのほとんどの公共空間が政府の所有であり、専ら「政府のプロパガンダのため、あるいは1980年代以降は商業的利益のため」に使用されているという状況、「現実の生活に根ざした社会的メッセージをもった」舞台芸術はヨーロッパで上演するしかないという状況の裏返しである。

今回は自身のカンパニー「草台班」の諸作品、魯迅の『狂人日記』に基づいた日本（プロト・シアター）、台湾（身体気象館）、香港（撞劇団）とのコラボレーション『魯迅2008』、上海市内の建設中のビルを会場に開催した「フェスティバル」における舞台芸術フォーラムや韓国、中国、日本のソロ・パフォーマンスなどを映像で紹介。非公認とはいえこうした活動がある意味では必要とされ可能になってきているという現状を報告し、中国におけるグローバルな社会状況に対応した舞台芸術の可能性、相互学習と国際交流のオルタナティブなあり方を示唆した。



## 09. レセプション

### ■ オープニング・レセプション

4日(水) 16:00~17:00/エビスビューティカレッジ

オープニングスピーチ:

国際舞台芸術交流センター 中根公夫理事長

飲料提供: サッポロビール株式会社

昨年同様、今年もオープニング・レセプションの予定を当日配布プログラムへ掲載し、すべての参加者が出席できる集まりとした結果、昨年同様、200名以上の参加を見た。

会期中、それぞれのプレゼンターは各自関心のあるものを選びながらプログラムを見て回るわけだが、オープニング・レセプションは個々の専門に拘らず、参加者が一同に会す。その機会を捉えて、会期前に参加者へ配布したコンタクトリストから会いたいプレゼンターを見つけて名刺交換をする参加者の姿も数多く見受けられた。

今後は開催時間の延長も含め、出会いの場である見本市の一プログラムとしてより活用され得るよう、充実を図ってゆきたい。



©Horinouchi Takeshi

### ■ クロージング・パーティ

8日(土) 17:15~18:15/恵比寿ガーデンホール フォワイエ (TPAM カフェ)

今年もブース会場前のフォワイエに「TPAM カフェ」を設けたが、連日、ミーティングをするグループ、資料を広げて次のプログラム開始時間まで一息入れる参加者が絶えなかった。1階のエントランスからエレベータで上がった目の前にTPAMカフェが位置し、ブース会場へ向かう導線上であることと、自然と「溜まれる」開放的な雰囲気をつくったことが功を奏した結果であり、こうしたカフェスペースの必要性を改めて感じた。



©Horinouchi Takeshi

TPAM カフェで行なわれたクロージング・パーティでは、直前にインターナショナル・ショーケースが実施されたルームからの誘導もスムーズにゆき、最終的には100名程の参加を得た。リラックスした空気のなか、この4日間に会った人や作品についてフランクに話したり、またそれぞれがお互いに知己を得た人を紹介し合ったりと、TPAM最後のプログラムにふさわしい有意義な会となった。来年は会場が変更になるが、こうしたパーティの開催は継続して実施してゆきたい。

## 10. パブリシティの記録

### ◎国内新聞 9紙

週刊オン★ステージ新聞	2/20 (金) 掲載
信濃毎日新聞 (信濃毎日新聞者発行)	2/26 (木) 掲載
しんぶん赤旗 (日本共産党中央委員会発行)	2/27 (金) 掲載
東洋経済日報 (東洋経済日報社発行)	2/27 (金) 掲載
産経新聞 (産経新聞社発行)	3/2 (月) 掲載
東京新聞 (中日新聞社発行)	3/2 (月) 朝刊掲載
読売新聞 (読売新聞社発行)	3/3 (火) 夕刊掲載
日本経済新聞 (日本経済新聞社発行)	3/4 (水) 夕刊掲載
高知新聞 (高知新聞社発行)	3/8 (日) 掲載

### ◎国内雑誌・情報誌 5誌

邦楽ジャーナル (邦楽ジャーナル発行)	10/1 発行・10月号掲載
エンターテインメントビジネス (総合ユニコム発行)	1/10 発行・23号掲載
シアターガイド (モーニングデスク発行)	2/2 発行・3月号掲載
東京エンタテインメント通信 (金沢倶楽部発行)	2/5 発行号掲載
見本市展示会通信 (ピーオーピー出版企画室)	4/15 発行・No.560号掲載

### ◎国内英字新聞 2紙

The Japan Times (The Japan Times 社発行)	2/27 (金) 掲載
International Herald Tribune - The Asahi Shimbun	2/27 (金) 掲載

### ◎国内英文雑誌 1誌

METROPOLIS (クリスクロス株式会社発行)	2/20 発行・778号掲載
---------------------------	----------------

### ◎国内ウェブサイト (主要なもののみ)

Wonderland—小劇場演劇、ダンス、パフォーマンスのレビューマガジン (ノースアイランド舎運営)	
東京の観光 Tokyo Tourism Info (東京都運営)	
演劇番組・テアトルプラトール (テアトルプラトール有限責任事業組合運営)	
REAL TOKYO (REAL TOKYO 運営)	
STUDIO VOICE online (STUDIO VOICE 運営)	
日韓文化交流カレンダー (日韓文化交流基金運営)	
Web DICE - 骰子の眼 (アップリンク運営)	
Fringe (fringe 運営)	
Embassy of the Kingdom of the Netherlands (オランダ王国大使館運営)	
JCDN Membership Dance File (NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク運営)	
CINRA.net (株式会社 CINRA 運営)	

指定管理者ドットネット（オフィス・ホヌラニ運営）  
Dance Cube（チャコット株式会社運営）  
french-wave.com（french-wave.com 運営）  
韓国文化院ニュース（駐日韓国大使館韓国文化院運営）  
Tokyo Art Navigation（東京都歴史文化財団運営）  
The Finnish Institute in Japan（フィンランドセンター運営）  
Australian Government in Japan（オーストラリア大使館運営）  
展コミ（株式会社ピーオーピー運営）  
統一日報（株式会社統一日报社運営）  
47news（全国新聞ネット運営）  
ケベックインターナショナル（在日ケベック州政府事務所）

他、参加団体ウェブサイトなどに多数掲載。

#### ◎海外雑誌 1誌

ダンスマガジン「MOMM」（韓国・Chang Mu Arts Center 発行）

4月号掲載

#### ◎海外ウェブサイト（主要なもののみ）

On the move（IETM 運営）

Gig - International Arts Manager（Impromptu Publishing 運営）

KadmusArts（KadmusArts 運営）

他、参加団体ウェブサイトなどに多数掲載。

#### ◎主な当日取材

##### 3/4（水） Vincent Moon 氏（フランス・映像作家）

取材内容：友川カズキ氏ショーケース撮影、インタビュー

媒体名：The Take-Away Shows

##### 3/4（水） 北嶋 孝氏（Wonderland 編集長・ジャーナリスト）

取材内容：見本市全般、音楽ショーケース 他

媒体名：レビューマガジン Wonderland（ノースアイランド舎運営）

##### 3/6（金） 樋口陽子氏（株式会社ピーオーピー編集者）

取材内容：見本市全般

媒体名：見本市展示会通信

##### 3/7（土） 扇田昭彦氏（演劇評論家）・坪池栄子氏（株式会社文化科学研究所）

取材内容：コンスタンティン・キリアック氏インタビュー

媒体名：国際交流基金「Performing Arts Network Japan」

##### 3/7（土） 芝野祐輔氏（高知新聞社 記者）

取材内容：見本市全般、高知県立美術館ブース、ヴィジュアル・プレゼンテーション

媒体名：高知新聞

# 11. 主な掲載記事

—音楽・舞踊・演劇・映像の総合専門紙—  
**週刊オン★ステージ新聞**  
 THE PERFORMING ARTS JOURNAL  
 2009年 2月20日 第1783号 (発行・編集・印刷) 発行所 東京都千代田区千代田 3日発行 3種郵便物認可 定価150円

### 国際舞台芸術のマーケット 東京芸術見本市二〇〇九が開催

演劇、ダンス、音楽など舞  
 台芸術の国際マーケット、東  
 京芸術見本市（TPAM）通  
 称ティールーム二〇〇九が三  
 月四日〜七日まで恵比寿カ  
 ーデンホールで開催。ショ  
 ーケースは二月二十八日〜三  
 月八日まで東京エリアの劇場  
 で開かれる。主催文化庁。  
 昨年は三千人の舞台芸術関

関係者が集まり、海外からは世  
 界三十カ国百五十名が参加  
 した。今年は国内外から百回  
 体が集まり、海外からは、韓  
 国、英国、カナダ、フィンラ  
 ンド、スウェーデン、デマ  
 ーク、ハンガリー、ペラルシ  
 ボーランド、マケドニアか  
 ら劇場ディレクター、プロデ  
 ーサー、アーティストが参加

する。プログラムは演劇パフ  
 オーマンズの「アンターナシ  
 ヨナル・ショーケース」、映  
 像による紹介「ヴィジュアル  
 ・プレゼンテーション」、五  
 十団体出展の「ダンス・プレ  
 センテーション」、「セミナ  
 ー」の四種類。また東京エリ  
 アの劇場で本公演やスタジオ  
 ショーイングなどTPAMシ  
 ョーケースが開かれる。  
 インターナショナル・ショ  
 ーケースは音楽が友川カズ  
 キ、三上寛で三月四日(金)五時  
 半、ダンス・ショーケースが  
 鈴木キエ、神村恵、手塚夏  
 子で三月五日(土)四時二十分、  
 演劇が三条会下ラカンで六  
 日(日)四時二十分、いずれも恵  
 比寿サ・ガーデンホールで開  
 催。また、イギリスのボタ  
 アルシテター、ロトザザが来  
 日し、三十分のクイズパフォ  
 ーマンスを開く。会場はホ  
 ル内のTPAMカフェ。  
 一日パス四千円、四日間パ  
 ス一万円。  
 ☎〇三・五七二四・四六六〇

週刊オン★ステージ新聞 2月20日(金)

特集 2009年(平成21年)2月26日(木曜日)

## 信濃毎日新聞

### 東京ガイド

◆東京芸術見本市2009 3月  
 4〜7日、目黒区三田1-13-2 恵  
 比寿ガーデンプレイス内 恵比寿サ  
 ・ガーデンホールほか都内各所 劇  
 場の制作担当やプロデューサー  
 向けに国内外の演劇、ダンス、舞台  
 芸術などの作品を紹介。一般も参加  
 可能。1日パス4000円、4日間  
 有効パス10000円。メイン会場  
 はJR山手線ほか恵比寿駅東口から  
 徒歩7分。☎03・5724・4666

信濃毎日新聞 2月26日(木)

2009年 2月27日 金曜日  
 日刊第20923号  
 発行所 日本共産党中央委員会  
 東京都渋谷区千駄ヶ谷4の25の7  
 〒151-8586 電話 03(3403)6111  
 ©日本共産党中央委員会2009年

## しんぶん赤旗

東京芸術見本市2009(TPAM)  
 3月4日〜7日  
 東京・恵比寿サ・カ  
 ーデンホールルー  
 ムほか。ダンス、音  
 楽、演劇など舞台芸術  
 のマーケット。アーテ  
 イストの作品を観客に  
 紹介する「プレゼンタ  
 ー」とアーティスト自  
 身が参加。作品の発見  
 ・流通によって制作者  
 のネットワークを広げ  
 る見本市です。一般の  
 参加も可能。「舞台芸  
 術のいま」を考えるセ  
 ミナーもあります。出  
 演は、音楽三上寛、演  
 劇友川カズキほか。演劇  
 三条会、ドラカンほ  
 か。☎03(5724)4660 事務局

しんぶん赤旗 2月27日(金)

# 東洋経済日報

2009年2月27日 金曜日

文化

韓国の参加作品も  
東京芸術見本市  
3月4日から都内で  
各国の舞台芸術関係者  
が参加する「東京芸術見  
本市」が、3月4日から  
7日まで、東京・恵比寿  
の恵比寿ザ・ガーデンホ  
ールなどで開催。韓国の  
劇団ティダの『ハルツの  
物語』が、3月7日午後  
4時40分、恵比寿ザ・ガ  
ーデンルームで上演され  
る。1日4000円、4  
日間通し1万円。☎03  
・5724・4660。



『ハルツの物語』

東洋経済日報 2月27日(金)



友川カズキがTPAMに  
参加 東京・恵比寿ザ・ガ  
ーデンルームで4日午後5時半  
から、歌手で画家の友川カズ  
キと詩人で歌手の三上寛のコ  
ンサートが行われる。3日か  
ら7日まで開催される舞台芸  
術の祭典「東京芸術見本市  
(TPAM) 2009」の一  
環。  
内外から制作者を集めてセ  
ミナーやプレゼンテーション  
を行うイベントで、コンサー  
トはインターナショナル・シ  
ョーケース(文化庁主催)と  
して実施。見本市へのビジタ  
ー参加には1日パス(400  
0円)が必要。問い合わせは  
事務局 ☎03・5724・46  
60。

産経新聞 3月2日(月)

## 夕刊 読賣新聞

2009年(平成21年)  
3月3日 火曜日

▽東京芸術見本市 4～7  
日、東京の恵比寿ザ・ガ  
ーデンルームなど。国内外の団体  
が作品や活動をアピールす  
る。5日はダンサー・振付家  
の神村恵、鈴木ユキオ、手塚  
夏子のソロ公演がある。☎03  
・5724・4660。

読売新聞 3月3日(火) 夕刊



夕刊  
3月4日  
(水曜日)

東京芸術見本市を開催  
国内外の演劇やダンス、音楽  
などの舞台芸術関係者が集ま  
り、情報交換する「東京芸術  
見本市」が四～七日、東京の  
恵比寿ザ・ガーデンプレイスで開  
かれる。プロ向けだが一般も  
ビジターとして参加・観覧で  
きる。多くの受賞歴のあるダ  
ンスの鈴木ユキオ(五日)を  
はじめ、演劇の三条会(六日)  
などが実演するほか、コミュ  
ニティダンスなどをテーマに  
したセミナーもある。

日本経済新聞 3月4日(水) 夕刊

# 舞台芸術で交流を

## 東京で見本市 県立美術館が初参加



芸術見本市で情報交換する藤田館長(左)から2人目(東京都渋谷区)

【東京支社】演劇やダンス、音楽など舞台芸術に関する国内外の関係者が集う「東京芸術見本市2009」が四十七日、東京・恵比寿カリーテンプレイスで開かれ、本県からは県立美術館が初参加。これまでの上演作品を紹介するDVDなどを配布した。

七日に終わったプレゼンテーションは、藤田義館長がマイクを握り、昨年七月にアジアで初めて上演して好評だった、欧州の女性二人組による「ピノキオ」(シエマ&シルヴィア)など四作品を映像を使って紹介。「ピノキオ」の紹介では、高知市内を巡る車の中で、運転席と助手席の二人が芝居し、後座席の観客が楽しむという内容に、会場の人たちも興味深げ。

県立美術館は「他施設とネットワークをつくり、今後の制作、上演に役立てたい」と初めて参加。職員四人がブースで同館内や過去の上演作品について来場者に説明し、作品の一部を取ったDVDなどを配布した。

藤田館長は「好評で再上演する予定の作品もある。(高知だけでなく)全国各地で上演できればありがたい」と話し、海外アーティストとの共同招聘(じょうご)についても話していた。(芝野祐輔)

高知新聞 3月8日(日)

COMING UP!

### Performance

## 東京芸術見本市 ートウキョウゲイジュツミホンイチ2009ー

アーティストの作品を観客へと提供するプレゼンターとアーティストが集まる、舞台芸術のマーケット「東京芸術見本市」。ブース出展や映像による作品紹介のほか、ショーケース会場を設け、パフォーマンスなどが会場で行われる。



作品などの展示(写真左)以外にも、アーティストの交流の場(写真右)として、制作者のネットワークを広げる場としても重要されている。また、一般客も1日4,000円〜参加することが可能だ。

Information  
東京 藤田義館長 三田113-2 恵比寿ガーデンプレイス内 恵比寿ザ・ガーデンホール、ルーム 他  
日3/4日 9時~20時 会場TAMショーケース(都内各劇場での公演)は22時~3時  
東京芸術見本市事務局 TEL:03-5724-4660 URL: http://www.ipam.or.jp

### CHECK!

## イチオシパフォーマンスを紹介



鈴木ユキオ/Suzuki Yukio/ダンサー  
1997年より舞踏を開始。ドキュメンタリー映画、制作活動が中心となる。近年はダンスパフォーマンスの制作活動が中心となる。近年はダンスパフォーマンスの制作活動が中心となる。



手塚夏子/Tozuka Natsuko/ダンサー  
生きた自分の体を素材とする『私が解いた謎』シリーズなどの個性的な上演が好評を得ている。



ロトザザ/Rotazaza/ライブパフォーマンス  
制作活動の中心となる『私が解いた謎』シリーズなどの個性的な上演が好評を得ている。

東京エンタテインメント通信

2月5日発行号



場。海外からも、世界30の国と地域から約150人が参加した。今年も、韓国、カナダ、ベルギー、フィンランドなどから、劇場のプロデューサーなどが参加予定。

メイン会場となる恵比寿ザ・ガーデンホールでは、イベント期間中にブースを出展して資料やDVDなどで活動内容や舞台芸術作品を紹介する「ブース・プレゼンテーション」と、企業やアーティスト、自主制作公演を実施している劇場が10分以内の映像を交えて作品を紹介する「ヴィジュアル・プレゼンテーション」が展開される。

このほか、ブース出展やヴィジュアル・プレゼンテーションによる作品紹介だけでなく、実際のステージを見たいという参加者の要望に応えるべく、開催前後(09年2月28日～3月8日)を含む期間に東京エリアで行なわれる本公演やスタジオ展示を「TPAMショーケース」として、TPAM参加者に紹介、チケットの斡旋、予約を代行する。

また今年も、東京発の舞台芸術の祭典「第1回フェスティバル/トーキョー(F/T)」が、09年2月26日～3月29日の約1か月間、開催されることもあり、TPAMはF/Tと連携し、プログラムなどを参加者へ積極的に紹介していく。

総出展団体数120、来場者2,000人を見込んでいる。

#### <概要>

名称 東京芸術見本市2009  
主催 東京芸術見本市2009委員会  
(国際交流基金、助地域創造、国際舞台芸術交流センター)  
連絡先 03-5724-4660  
会期 2009年3月4日～7日  
会場 恵比寿ザ・ガーデンプレイス/ガーデンホールほか  
開催時間 10:00～21:00(予定)  
料金 1日パス:早期料金3,000円(2009年2月2日まで)、通常料金4,000円(2009年2月3日～16日)※恵比寿ガーデンホールで行なわれるプログラムに参加可能

## 「東京芸術見本市2009」 国内外の演劇・ダンス・音楽の 関係者が集う舞台芸術の見本市

演劇・ダンス・音楽など、舞台芸術のマーケット「東京芸術見本市(以下TPAM)2009」が、2009年3月4日～7日の4日間、恵比寿ザ・ガーデンホール/ルームほかで開催される。

1995年から開催され、今年で13回目を迎えるTPAMは、国内外の劇場・ホールの制作担当者、フェスティバルのディレクター、プロデューサー、エージェンツ、プロモーターなどのほか、アーティストが集まり、情報交換や新規プロジェクトの立上げの機会を提供する「ネットワーク形成の場」でもある。

昨年の会期中は、出展者やビジター来場者を合わせて延べ約2,000人が来



昨年の会場内のブース展示風景



昨年のヴィジュアル・プレゼンテーションの風景



「東京国際フォーラム」の開催時期に重なった第2回目には200ブースも出展するほど盛

## ビジネスを元気にする イベントの力

「東京芸術見本市2009」は、舞台芸術関係者のための見本市として、1995年から開催。13回目を迎えた今年

は3月4日から7日までの4日間、恵比寿ザ・ガーデンホール/ルームを会場に行なわれた。

見本市の主催者であり、創設からずっと事務局運営を担当しているのがNPO法人国際舞台芸術交流センター。センターで現在

2代目の事務局長を務める丸岡ひろみさんは、もともと第1回目に出席した参加者でもある。当初のようすを知る丸岡さんに、初開催の印象とこれから目指そうとしている見本市の方向性について話を聞いた。

### 東京芸術見本市 2009

丸岡ひろみさん

東京芸術見本市 事務局長  
NPO法人国際舞台芸術交流センター理事

#### <開催概要>

期：3月4日(水)～7日(土)  
場：恵比寿ザ・ガーデン  
ホール/ルーム  
催：東京芸術見本市2009  
実行委員会

会 主

況でした。これまで舞台芸術を対象とした商談型のイベントがなかったことから、注目度は高く、当時劇団で

少で、劇団の運営は資金的にも厳しいというのが現実だった。そして当時置かれていた環境と現状もそれほど変わってはいないのだとも言っていた。

「見本市という名称からは売買ということがイメージされるし、当然出展者も期待して参加します。一方で舞台芸術は商品ではないと拒否反応されることもあれば、割り切つて参加しているも契約成立まで2、3年というタイムラグがあるし、まして全員が成約できるとは限らない」

「東京芸術見本市」はイベントの力を活かしながら、深い交流を目指し新しい方向へと動き出している。

「東京国際フォーラム」の開催時期に重なった第2回目には200ブースも出展するほど盛

見本市開催の背景にはそのような現状を変えていこうとする日本舞台芸術に対する思いがあった。産業として未成熟な舞台芸術界をビジネスと

「東京芸術見本市」はイベントの力を活かしながら、深い交流を目指し新しい方向へと動き出している。

「東京芸術見本市」はイベントの力を活かしながら、深い交流を目指し新しい方向へと動き出している。

## 商談型からネットワーク構築型へ

# The Japan Times

ISSN 0305-1759  
©THE JAPAN TIMES, LTD., 2009

Friday, February 27, 2009

4TH EDITION

## re: arts



From bored to sensual: Pappa TARAHUMARA is restaging their interpretation of Anton Chekhov's "Three Sisters" for the Tokyo Performing Arts Market.

Tokyo Performing Arts Market offers wealth of options

## An insider's view, open to the masses

Paul McInnes  
SPECIAL TO THE JAPAN TIMES

The performing-arts world in Tokyo seems to flourish in spring, with numerous (and similarly named) events taking place within the city. The Tokyo arts crowd is spoiled for choice with the Theater/Festival (formerly The Tokyo International Arts Festival), The Tokyo Performing Arts Festival and Tokyo Performing Arts Market being held almost simultaneously at venues dotted across the metropolis.

TPAM differentiates itself from the other events by providing an opportunity to network and meet some of the people who help make Tokyo, in cultural terms, one of the world's most important and vibrant cities. Held from March 4 to 7, the market, now in its 13th year, is a hub at which experienced and emerging artists can meet with arts programmers and industry professionals at presentations, conferences and scheduled productions.

The emphasis of TPAM is "to establish the notion of the 'presenter' in Japan and Asia, where the idea has not really been clear," says Hiromi Maruoka, the event's director, in an e-mail interview.

"Presenters are people who mediate between a work and audience. . . . I hope that TPAM becomes a platform where presenters play the leading part, exchanging information to connect works and audiences internationally, and create opportunities for the birth of new performing arts."

In addition to the market's promotional function, the TPAM Showcase will present performances and studio showings around the Tokyo area from February 28 to Mar. 8. Included in the lineup are Pappa TARAHUMARA's critically acclaimed reworking of Chekhov's "Three Sisters," and likely gems such as dancer Chikanari Shukuka's multimedia production "Breath" and "Opus No. 6—Living II," the latest work from avant-garde performance company OM-2. If that all sounds too modern for you, then consider that there will be Buddhist ritual chants, koto and taiko (Japanese drum) concerts. The specially selected International Showcase includes appetizing



You're a star: U.K. performance group Rotozaza's "Etiquette" is staged by any two people who follow instructions given to them over headphones.

productions by a number of domestic artists, including Chiba City's award-winning Sanjukai Theater Company; Natsuko Tezuka, who is known for her explosive dance routines; and musicians Kazuki Tomokawa and Kan Mikami (who also acted in director Nagisa Oshima's 1983 film "Merry Christmas Mr. Lawrence"). For the showcase, South Korean theater group Tuida will present the Korean fairy tale "The Tale of Haruk," which features traditional Korean puppets made of paper, unique native masks and percussion instruments made from recycled materials.

The most enthusiastic theater fans shouldn't miss the hotly tipped English performance group Rotozaza, whose "Etiquette" is a work generated by audience participation. For half an hour, two people in the TPAM cafe in Yebisu Garden Hall follow the instructions of headphones that they wear, which tell them what to say to each other and how to use props provided for them.

Given such a host of choices, it's clear that TPAM isn't your ordinary run-of-the-mill arts event.

*Selected performances in the International Showcase by Japanese singers and theater companies will have English surtitles. For more information, registration details and a full schedule of events, visit [www.jpam.or.jp](http://www.jpam.or.jp)*

## From Russia to Japan: Chekhov reinterpreted

"Three Sisters," one of Anton Chekhov's best-known plays, has often been produced as a typically dreary Russian naturalist drama in which nothing much happens. It takes something special for the finer nuances and themes of the often misunderstood play to come alive.

Renowned Japanese dance-theater company Pappa TARAHUMARA, established in 1982 by Hiroshi Koike, has made a name for itself internationally for electrifying and provocative choreography. These qualities are injected into its staging of the 1900 Russian masterpiece. Relocated to the Japanese countryside in the 1960s, Pappa TARAHUMARA approaches "Three Sisters" as "a seemingly sweet portrayal of three bored sisters grappling with womanhood that spirals in to a sensual and charged meditation on female identity, coming of age and the Japanese obsession with youth culture."

The production, which the company premiered in 2005, has toured as far as Sao Paulo, Manila and Mumbai, collecting

glowing reviews along the way. Mary Murfin Bayley of The Seattle Times says that the "company captured, through the intense, sometimes comic journey of three inspired performers, the essence of the original: a contradictory blend of unsatisfied yearning and mature acceptance." Pappa TARAHUMARA's production features surreal soundscapes, imaginative uses of props and a strong visual presence that counterbalances the script's heavy philosophical musings.

Besides working on Chekhov's play, Director Koike is no stranger to interpreting others' stories. Last year he staged "Gulliver & Twist" last year, a play based on Jonathan Swift's 1726 satire "Gulliver's Travels." Koike's vision and the commanding performances by Pappa TARAHUMARA's actors make a production that has resuscitated Chekhov's comic tragedy from the theatrical doldrums one of the highlights of the Tokyo Performing Arts Market showcase. (Paul McInnes)

*"Three Sisters" runs March 4-7 at Studio SAJ (Maruha Building 1F, 1-1-5 Arai, Nakano-ku, Tokyo) as part of the Tokyo Performing Arts Market.*

INTERNATIONAL  
**Herald Tribune**

THE GLOBAL EDITION OF THE NEW YORK TIMES

**The Asahi Shimbun**

Japan's Leading National Newspaper | English Edition | No. 12,638

Friday, February 27, 2009

**Weekend & CULTURE  
MORE**

**THE 13TH TOKYO PERFORMING ARTS MARKET**

Nearly 100 artists and groups from Japan and abroad present dance, music and theatrical works at the Tokyo Performing Arts Market, to be held March 4-7 at the Garden Hall and the Garden Room in Tokyo's Yebisu Garden Place near JR Ebisu Station.

The event covers seminars, displays and performances.

The performance programs include an experimental drama "Etiquette" by British company Rotozaza. Two performers chosen from the public in advance are asked to follow recorded scripts and directions delivered via headphones. The 30-minute show is scheduled several times a day on March 5 (1-4:20 p.m.), March 6 (noon-4 p.m.) and March 7 (noon-3:20 p.m.) at the venue's TPAM cafe. Pre-registration via the event's homepage is required



© ANT HAMPTON  
"Etiquette" by Rotozaza

to perform. Also Japanese musicians Kazuki Tomokawa and Kan Mikami, both born in 1950 who gained international acclaim for their lyrics, will

be on stage March 4 (5:30 p.m.). The performance in Japanese will have English subtitles.

4,000 yen for one day or 10,000 yen for four days at the door.

Call the organizer at 03-5724-4660 or visit <[www.tpam.or.jp](http://www.tpam.or.jp)>.

International Herald Tribune  
- The Asahi Shimbun  
2月27日(金)

Japan's No.1 English Magazine #778 February 20, 2009 無料 FREE!

# METROPOLIS

Arts & Entertainment



**TOKYO PERFORMING ARTS MARKET**

Offering a lively diversion from Festival/Tokyo is the **Tokyo Performing Arts Market**, a networking event for theater and dance professionals that also offers laypeople the chance to view new works by emerging and established talent. Slated for the Garden Place complex in Ebisu, TPAM spans the gamut from contemporary dance to theater and beyond. Among the numerous groups to perform is Japan's notorious OM-2 (left). Under the direction of Shigeo Makabe, the "interactive performance company" has a reputation for startling nonverbal performances that combine theater with dance and multimedia. For TPAM, the group offers *Opus No. 6 - Living II*, a piece that tries to reach the "core" of "living" by using personal and social problems as the main motif.

**The Garden Hall, Mar 6-9. See stage listings for details.**

METROPOLIS  
2月20日発行・778号

## <東京芸術見本市 2009>

事務局長  
副事務局長  
国内プログラム担当  
海外プログラム担当  
プログラム・アシスタント

丸岡ひろみ  
田村光男  
久保田夏実  
塚口麻里子 天野未来  
佐藤道元

## <インターナショナル・ショーケース 2009>

総合コーディネーター  
演劇（国内）プログラム・コーディネーター  
海外プログラム・コーディネーター  
コーディネーター・アシスタント  
字幕翻訳・作成・操作（音楽・演劇ショーケース）  
字幕翻訳（韓国ショーケース）  
字幕協力（韓国ショーケース）

小沢康夫  
塚口麻里子  
丸岡ひろみ  
山浦日紗子  
新井知行  
金 世一  
SPAC—静岡県舞台芸術センター

広報  
経理

中島香菜  
高橋玲子

テクニカル統括・会場デザイン設営  
テクニカルディレクター  
照明  
音響  
ショーケース舞台監督  
舞台設営  
受付統括  
スタッフ

関口裕二（balance,inc.DESIGN）  
中野 努（balance,inc.DESIGN）  
菅橋友紀（balance,inc.LIGHTING） 田中稔彦  
金子伸也  
西川 光  
C-COM  
柿崎桃子  
桜井由美子 辻阪小百合 花巻麻由子 吉福敦子

クリエイティブ&アート・ディレクション  
デザイン  
DTP  
Web スタッフ  
通訳  
翻訳  
記録写真撮影  
記録映像撮影  
DVD 編集  
旅行アレンジメント  
印刷

栗林和夫（クリとグラフィック）  
クリとグラフィック  
吉福敦子（StudioGOO） 大沼恵子  
阿波田稔子  
イディオリンク株式会社  
新井知行  
宮内 勝 堀之内毅  
古屋和臣 須永祐介 油谷崇平  
古屋和臣  
近畿日本ツーリスト株式会社  
有限会社 海月舎



### 東京芸術見本市 2009 開催報告書

編集・発行：東京芸術見本市事務局  
150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 3-1-2 サウスビル 3F  
Tel:03-5724-4660 / Fax:03-5724-4661  
tpam@tpam.or.jp / www.tpam.or.jp

印刷：株式会社 雄進印刷

発行日：2009年5月31日

